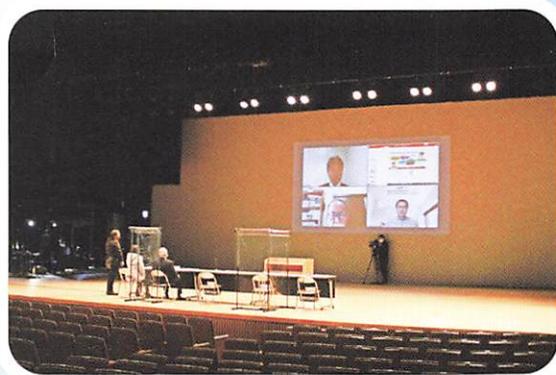


令和2年度 西濃学園教育報告書

対話が拓く岐阜の教育 ～不登校特例校を語ろう～



対話が拓く 岐阜の教育 ～不登校特例校を語ろう～

令和3年2月13日(土)

於：揖斐川町地域交流センター「はなもも」

1. 開会の挨拶					
	北浦 茂	西濃学園学園長		1
2. 来賓の挨拶					
	岡部栄一	揖斐川町町長		2
3. 第一部					
	草潤中学校紹介	井上 博詞	岐阜市教育委員会 草潤中学校 設置準備室長	3
	西濃学園中学校紹介	太田 宣子	西濃学園スクールカウンセラー	14
	少年の主張	小野木涼香	西濃学園中学校中学3年生	27
4. 第二部 シンポジウム				29
	司会	嶋野 道弘	元文教大学教育学部教授		
	コメンテーター				
	廣石 孝	文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導室 課長補佐			
	加藤善一郎	岐阜市不登校特例校設置アドバイザー・ 岐阜大学大学院医学系研究科教授 (小児神経専門医)			
	早川三根夫	岐阜市教育長			
	井上 博詞	岐阜市教育委員会 草潤中学校 設置準備室長			
	古田 信宏	岐阜大学特任教授・日本学校教育相談学会岐阜県支部理事長			
	北浦 茂	西濃学園学園長			
	太田 宣子	西濃学園スクールカウンセラー			



主催：学校法人西濃学園

後援：岐阜県教育委員会 / 岐阜市教育委員会 / 揖斐川町教育委員会 /
岐阜県私立中学高等学校協会 / 公益財団法人 田口福寿会

1. 開会の挨拶

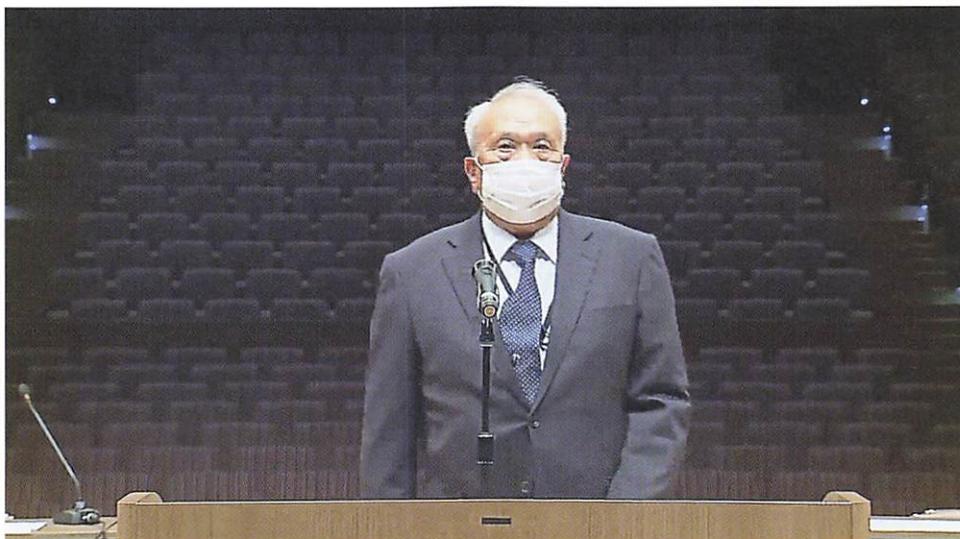
学校法人西濃学園学園長 北 浦 茂

西濃学園の北浦です。本日は大変お忙しいところ、揖斐川町長の岡部栄一様にお越しいただき、ご挨拶を賜り、会を開くことができますことは、揖斐川町でお世話になっております西濃学園にとりまして、誠に嬉しいことです。これから一層揖斐川町の皆様と共に歩いていける励みとなります。ありがとうございます。

今年4月より、岐阜市立草潤中学校が開校されます。岐阜県に2校の不登校特例校ができることになり、不登校で悩んでいる子ども達、親にとっては選択肢が増えることになり、大変喜ばしいことでございます。

わが国は少子化にもかかわらず、不登校で悩んでいる児童生徒が年々増加しております。この会はそれぞれの学校の教育を明らかにし、悩める子ども達の自立支援を考えるためには、大変大切なものと考えております。当初は多くの方にお集まりいただき、開催を計画しておりましたが、コロナ禍の影響で一部リモートで実施せざるを得なくなりました。私ども素人は簡単に実施できるものと思っておりました、できるだけ両校の現状、それについての専門家の方々のご意見を通常のシンポジウムに近い形式で行いたいと思い、大垣ケーブルさんをお願いしたところ、大変手間がかかり、大きなご負担をおかけして、ご迷惑をおかけしてしまいました。会の設定も本来舞台より客席に向かうところを反対になり、机などの設置が不具合になっております。お許してください。

この会が岐阜の悩める子ども達の笑顔を一人でも多く見られるようになることを祈念いたし、開会の言葉とさせていただきます。



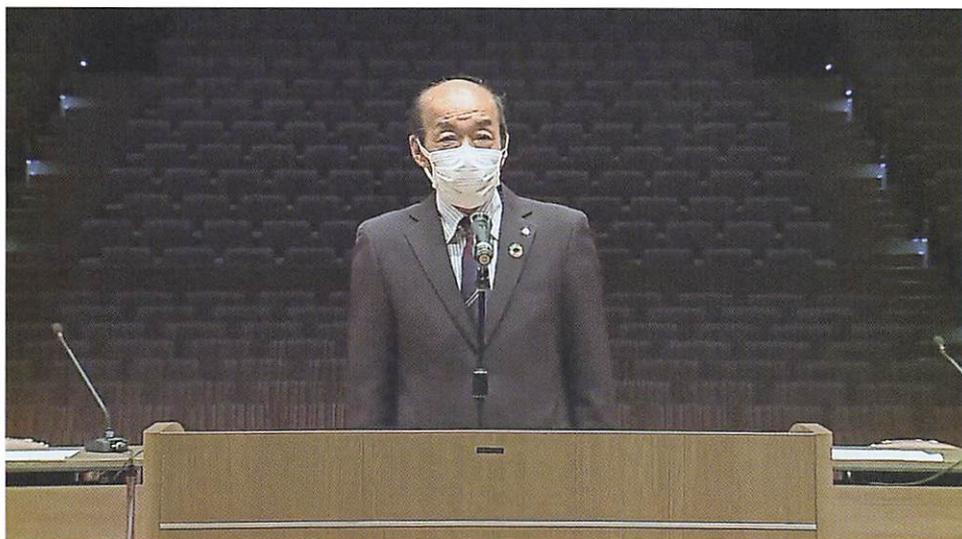
2. 来賓の挨拶

揖斐川町町長 岡部 栄一

みなさんこんにちは。ただいまご紹介いただきました揖斐川町長の岡部です。本日、「対話が開く岐阜の教育 不登校特例校を語ろう」をテーマに、関係各位のご出席をいただき、このようなシンポジウムが開催されますこと、心よりお祝いを申し上げます。また、平素は西濃学園はじめ、関係の皆様方には、不登校で悩める子ども達のために、格別のご尽力を賜っておりますこと、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

残念ながら今回のシンポジウムは新型コロナウイルス感染拡大の中で、岐阜県にも緊急事態宣言が発令をされているということで、リモートでの開催ということになりまして、大変残念ではございますが、そうしたコロナ禍にあっても不登校教育の推進に遅れが出てはいけないというわけであり、こういったシンポジウムを開催していただけるということは大変有意義なことであり、ありがたいことと思っております。

特に令和3年度には岐阜市において新たに不登校特例校の草潤中学校が開設をされるとうかがっております。これから西濃学園、草潤中学校はじめ、関係各位がしっかりと連携をされ、岐阜県の不登校教育の一層の推進が計れますよう、ご祈念を申し上げて、私のご挨拶とさせていただきます。どうぞ本日はよろしくお願い申し上げます。



3. 第一部

草潤中学校紹介

岐阜市教育委員会 草潤中学校 設置準備室長 井上博詞



岐阜市教育委員会の不登校特例校設置準備室の井上と申します。草潤中学校は、令和3年4月に「岐阜市立の不登校特例校」として開校する予定です。

本日の説明内容

- ・令和3年4月1日開校予定
- ・岐阜市立の中学校
- ・不登校特例校

①不登校特例校開校に至る経緯
②草潤中学校のコンセプト
③教育の特徴について
④開校に向けた準備・転入生徒

本日は、大きく画面の4点について、ご説明させていただきまします。 よろしくお願ひします。

①. 不登校特例校開校に至る経緯

教育機会確保法
H28 12月成立
H29 2月施行
具体的な取り組みの一つに「不登校特例校」を明示

年度	不登校児童生徒数(人)
H24	320
H26	364
H28	409

年度	出席率(%)
H24	2.815
H26	3.20
H28	3.72

県内の通信制高校(10月)・京都の特例校(11月)視察
不登校特例校の基本方針案の作成

H31・R元年度～ 不登校特例校開校に向けた準備
文科省への申請 → 制度設計 → 環境整備 → 生徒募集

最初に、不登校特例校開校に至る経緯についてです。平成28年度末に「教育機会確保法」が施行されました。当時、すでに本市においては、不登校児童生徒が県平均・全国平均より多く、特に中学生の不登校が喫緊の課題となっていました。そこで、平成30年度には、他市の特例校を視察したりしながら、草潤中学校の基本方針案を作成しました。昨年度、令和元年度から、開校に向けた準備を始め、本年度は、教育委員会内に不登校特例校設置準備室を新設し、準備を進めました。

<不登校を経験し通信制高校に通う生徒の声>

- ・自分のペースで学習ができなかった
- ・自分で決められるのはいいが、決められないこと(人)も
- ・服装が自由なのはいい。でも制服の方が楽かも
- ・休み時間が休み時間ではなかった
- ・「なぜこんなことに時間をかけるのか」と思うことが
- ・合わない先生がいる。担任を選べるのは、とてもいい
- ・毎日必ず登校しなくてもいいというのは、気が楽
- ・地元の中学校の生徒とは会いたくない。
- ・保健室や職員室、相談室でゆっくりできるスペース
- ・トイレがきれいなことは、とても大事

草潤中学校の制度設計をするにあたり、有識者として、大学教授・小児科の医師、先進校である西濃学園さん等から様々なご示唆をいただきました。また、フリースクールや通信制高校、自立支援教室等を運営しているエールぎふ等からもご意見をいただきました。さらに不登校を経験した通信制高校に通う生徒に聞いた意見が画面の通りです。

②. 草潤中学校のコンセプト

*「学校らしくない学校」

- ・学校の制度に合わせる生徒
(毎日、決められた時間に登校する)
(登校したら、決められた教室・座席・学習)
- 
- ・学校が一人ひとりの生徒に合わせる
「ありのままの君を 受け入れる新たな形」

皆様から貴重なご意見をいただいて導き出した草潤中学校のコンセプトは、「学校らしくない学校」ということです。これまで、生徒が学校に合わせてきました。毎日決められた時間に登校するのが当たり前。決められた教科の学習をみんなと一斉に受けることが当たり前に要求されています。これまでの学校の

仕組みは、多数の児童生徒を効率的に指導するためには有効な仕組みであると言えます。しかし一方で、そういった学校らしい仕組みの中で苦しみ、不登校になっている児童生徒が多数いることも事実です。草潤中学校は、学校が、一人ひとりの生徒に合わせることを目指します。そこで「ありのままの君を受け入れる 新たな形」というキャッチフレーズを掲げています。

年度での学習スタイルによるコース		月	火	水	木	金
時間	9:30					
1	9:35~9:45	Onlineによるフォームアップ				
2	9:55~10:45	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習
3	10:55~11:45	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習
4	12:30~13:20	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習
5	13:30~14:20	Online学習	Online学習	Online学習	Online学習	Online学習
6	14:25~14:35	Onlineによるワークダウン				
授業	14:35	2. 原則に1日程度、学習環境として変更				

学期別学習スタイル		月	火	水	木	金
時間	9:30					
1	9:35~9:45	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習
2	9:55~10:45	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習
3	10:55~11:45	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習
4	12:30~13:20	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習
5	13:30~14:20	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習
6	14:25~14:35	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習
授業	14:35	原則として毎日登校				

年度での学習スタイルによるコース		月	火	水	木	金
時間	9:30					
1	9:35~9:45	Onlineフォームアップ	Onlineフォームアップ	Onlineフォームアップ	Onlineフォームアップ	Onlineフォームアップ
2	9:55~10:45	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習
3	10:55~11:45	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習
4	12:30~13:20	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習
5	13:30~14:20	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習
6	14:25~14:35	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習
授業	14:35	1. 原則に、2日毎日の登校				

相談して決めましょう！
年度途中の変更もOK！
1か月程度のスパンで見直し

そのコンセプトは、学習のスタイルにも表れています。家庭で学習するコース、週に数日登校するコース、毎日登校するコース、自分に合ったコースを相談して決めていくこととしました。年度途中で変更することも柔軟に対応します。

③. 草潤中学校の教育方針

自分らしいライフプランを描く

これに代表されるように、草潤中学校は、一人ひとりの「心身の安定」と「自分の新たな良さと可能性を発見できる」ことを大切にしていくことで、「自分らしい新たなライフプランを描くことができる」学びの場を目指します。そのための柱となる5つのキーワードについてご説明します。

1つめのキーワードは、心身の安定・自立のための学びです。

③-1 心身の安定・自立のための学び

- ・ **ホッとできる**の時間や場所
- ・ **セルフコントロールスキル**を身に付ける機会を充実させること

5月に自分で決める

担任

養護教諭

サポーター

学校司書

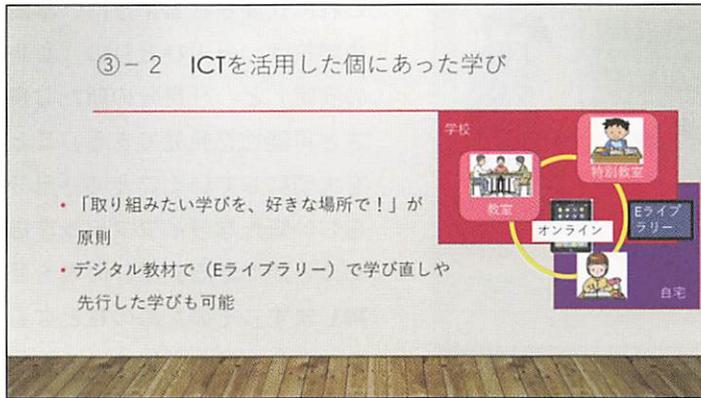
医師

心理士

草潤中学校では、様々なタイプの生徒に合った安心していただける居場所を各所に配置します。また、担任の先生は、自分が最も相談しやすい先生を、5月に自分で決めることにします。



2つ目のキーワードは、「ICTを活用した個に合った学び」です。これまでの学校では、大人数が教室に入って、決まった時間みんなで同じ学習内容に取り組む授業が行われてきました。したがって、授業の内容についていけず、苦しい思いをしていた生徒もいたと思います。



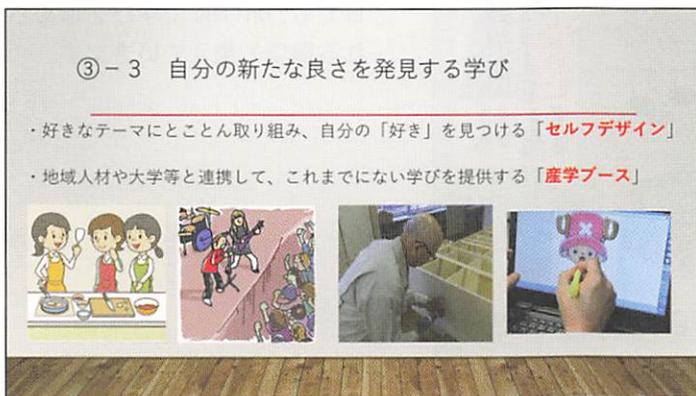
ですから、草潤中学校では、「自分が取り組みたい学びを好きな場所で」取り組めるシステムをとる予定です。例えば、教室内で授業に参加する子もいれば、Onlineで特別教室や廊下から授業に参加する生徒、さらには家庭にいながらにしてOnlineで授業に参加する生徒もおり、場所に縛られず、同じ学びを共有

できます。また、授業内容が、自分に合っていないと感じるようであれば、デジタル教材を活用した学習を自分で進めることも可能です。だから、1日の学習内容と場所は、生徒が決めることとなります。

また、不登校というマイナスのイメージを持ちがちですが、不登校の生徒の中には、突出した才能を持っている人もいるかもしれません。時間割通りに授業に参加するのもし、突出した才能を伸ばすために、一日中、絵を描くことも可能です。数年先、草潤中学校の卒業生の中から突出した才能を開花させて、世界で活躍するミュージシャンや、アーティストが生まれることも夢見ています。



3つ目のキーワードは、「自分の新たな良さを発見する学び」です。



音楽や美術技術家庭科を1つにまとめ「セルフデザイン」という教科を新しく作ります。その時間には、自分が興味を持ったことに、とことん取り組むことができます。また4階を「産学ブース」と名付け、地域の方や大学・民間企業にボランティアで入っていただこうと考えています。



4つ目のキーワードは、「社会との絆を感じる学び」です。

③-4 社会との絆を感じる学び

- ・ 地域の方と一緒に作業
- ・ 他の学校等との共同活動



例えば、地域の人と一緒にしてお昼ご飯を作ったり、畑で野菜を育てたりすることもできます。また、近くの高校やフリースクールに通う子達とスポーツを楽しむことも考えています。現在、すでに複数の市民の方から「私は作曲など、音楽についてなら、子ども達に教えることができます。」などという申し出をいただいております。

③-5 草潤中学校の教育方針



また、自宅で学習すると決めた日でも、Onlineで学びを進められる環境も整えていきます。

③-6 日課表

～毎日登校する生徒の場合～

「ウォームアップ」は、自分で決める朝スッキリ活動

教科の学習方法は、自分で選択する

お昼ご飯は、学校内のどこで食べてもOK

1日の自分を見つめなおす「クールダウン」

一般中学校...1015時間 ≒ 草潤中学校...770時間

50分授業	月	火	水	木	金
始業 9:30					
1 9:35-9:45	社会	数学	理科	英語	国語
2 9:55-10:45	社会	数学	理科	英語	国語
3 10:55-11:45	英語	理科	国語	社会	数学
授業 11:50-12:10					
昼休み 12:15-12:30					
4 12:35-13:20	国語	数学	総合	英語	
5 13:30-14:20	体育	体育	総合	体育	
6 14:25-14:55	社会	数学	理科	英語	国語
終業 14:55					

基本的な登校時刻は9:30です。市内全域から登校してもらうため、ラッシュ時間より遅くしています。登校したら、まずウォームアップに取り組みます。この時間は、自分が選んだ担任の先生の所へ行って、自分がより良い1日を過ごすための予定を自分で決めます。該当学年の時間割はありますが、学習の内容と場所は、自分で決めます。お昼ご飯は、どこで食べるかは自由です。最後に1日の自分の良さを感じることが出来るクールダウンを自分が選んだ担任の先生と取り組み、14:35には下校となります。1年間の総授業時間数は770時間となる予定です。

③-7 草潤中学校の生活について

- ・ 服装、持ち物等、細かな規則はない
- ・ スマホなどの貴重品は、鍵付き個人ロッカーに保管する
- ・ 給食はなく、自宅から弁当を持参するか、学校で職員と同じ業者の弁当を注文する



学校生活についても、安全に関わることを以外は、強制することはしません。服装も前の学校の制服を着ても、私服でも OK です。制服を作りたいのであれば、相談して作っていきたいと考えています。給食も一斉掃除もありません。自分のリズムにあった生活を送るなかで、自分のライフプランを描きはじめる場となれることを願っています。

草潤中学校の転入学の定員

*「3学年合わせて、40名を想定」

- ・ 学校説明会の参加児童生徒は第1回、第2回合わせて 200名以上
- ↓
- ・ 1学級 13人程度を想定
 - ・ 定員40人に加え、在籍校に籍を置いたまま支援

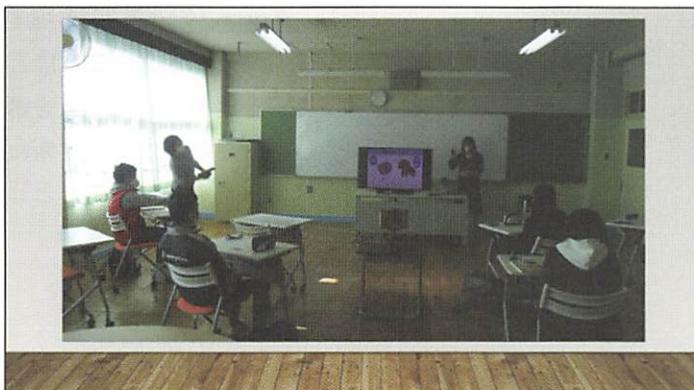
ところで、転入学していただく定員は、当初 3 学年併せて、40 名を想定しておりました。しかし、第1回、第2回の学校説明会には、200 名を超える希望者が参加されました。希望する生徒さんすべてが転入学してきたとすると、これまでお話ししてきた草潤中が目指す学校の実現はできないと考えられます。特例校の開校に向けた文部科学省への申請では、定員 40 名として申請し、お認めをいただいております。定員は、各学年 13 人程度としました。しかし、これほど多くの希望者がみえることを踏まえ、定員の 40 人に加え、新たなシステムを導入することとしました。



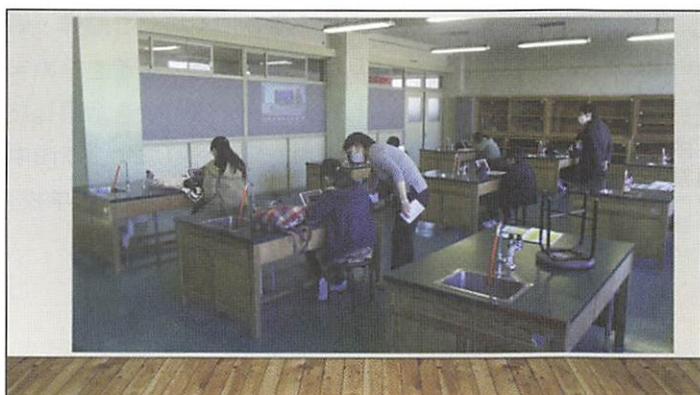
40名以外に、在籍校に籍を置いたまま、週に1日、50分、個別に学習支援を行う「通級支援」、さらに在籍校に籍を置いたまま、Onlineで週に2回、1回20分程度、個別に学習支援を行う「Online支援」というシステムも導入します。それらを合わせた90名を、草潤中学校が直接、支援できるようになります。



それでは、開校に向けたこれまでの準備の進行状況についてです。学校説明会は2回実施し、併せて222名の児童生徒の参加をいただき、転入学等を希望される児童生徒の皆さんは、全員、個別の面談をさせていただきました。医療の面から判断していただくために、小児科の先生にもご参加いただいております。その上で、1月9日(土)に体験も含めた学校見学会には、109名の児童生徒が参加してくれました。



その時の授業の様子です。



別室で Online で授業に参加している場面です。

〈嬉しかったこと〉

- ・手を挙げさせられることがなくて、安心することができた
- ・別室でも授業が受けられること
- ・間違えたり、分らなくても叱ったり、責めたりする先生が一人もいなかった
- ・できたところをたくさん褒めてもらえて、嬉しかった
- ・久しぶりに勉強ができたこと
- ・家族以外の人と話をしたこと
- ・気軽にこの学校に来れたこと

〈困った事・心配なこと〉

- ・生徒の人は、何も話せなかった
- ・先生は接しやすかったけれど、友達となじめるかどうかは不安
- ・勉強についていけない不安
- ・先生は優しく接してくれたけど、先生に話しかけるときは、やっぱり緊張する
- ・Onlineの画面で見にくい所があった。でもOnlineの授業は、やっぱりいいと思いました

体験終了後のアンケートでの記述です。本年度一度も登校したことがない生徒が、初めての場所で、初めての先生、全く知らない仲間とともに学習していること、いや、草潤中学校の校舎に入ってきてくれたこと自体が、私は奇跡だと感じました。参加した子ども達が、私達に多くの示唆を与えてくれていま

す。「久しぶりに勉強できたことが嬉しかった」「家族以外の人と話せたのが嬉しかった」という感想もあります。仲間と話をする機会をどうやって生み出していくかが、開校後の大きな課題であるとも感じました。

④. 開校に向けた準備②

転入学生徒検討会

- ・児童生徒・保護者の方のアンケートの内容
- ・在籍校からの情報 ・個別面談での様子 ・学校見学会での様子
- ・草潤中学校の提供する学びが有効か ・WISC等の検査結果

草潤中学校
道級支援
25人

不登校特例校
草潤中学校
定員40人

草潤中学校
Online支援
25人

児童生徒の能力や資質 草潤中学校の支援の必要度・有効性
準備室員・学校指導課・エールぎふ・小児科医
一人ひとりにとって最適な学びの場を検討

転入学生徒検討会において、事前に提出いただいた保護者の方からのアンケート、在籍校からの情報、個別面談や学校見学会での様子、そしてWISC等の検査結果をもとに、転入学する40名、通級支援25名、Online支援25名を決定しました。高校入試のように児童生徒の能力や資質で力のある生徒を受け入れる

のではなく、草潤中学校の支援の必要度、草潤中学校の支援が児童生徒に有効な支援となるかを基に、一人ひとりにとって最適な学びの場を判断させていただきました。

④. 開校に向けた準備③

* 生徒の皆さんが主に使用する場

2階のトイレ
11月～全面改修

生徒用の机・椅子
通常とは違う

2,000冊以上の図書の購入

* 隠れたコンセプト・・・「手作りの学校」
多くの人の思いがこもった学校

応援寄附

生徒の学びに不可欠な設備・備品は、市の予算で整備を進めました。今後、寄付金を活用した環境の充実を図ります。草潤中学校の特色は、「手作りの学校」というコンセプトです。



学校らしくないカラフルな塗装

最後に、現在の学校の様子をご覧ください。「手作りの学校」を隠れたコンセプトとしておりますので、市の予算だけでなく、岐阜市の学校校務員さんや地域の方々のお力をお借りしながら手作りで環境を整えてきました。



通常の学校らしくない机・椅子

各学年の教室は、1年生教室とは言わず、森・川・海という教室名です。



インターネットカフェ的な個室空間
E-ラーニングルーム内に 9部屋

ここは、2階のEラーニングルームの一角です。衝立で仕切られた個室空間を9室用意しました。学校見学会でも教室に入らなかった生徒が、この個室で一人で過ごす姿もありました。



活用方法無限大の「アゴラ」

この大きな椅子は、地域の方からの寄附です。また、地域の方からだけでなく、全国からも草潤中学校を応援するご寄附をいただいております。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。このお気持ちは、入学する生徒にも「応援してくれる人がいることの安心感」として伝わっていくと確信しております。



ありのままの君を受け入れる新たな形

岐阜市立草潤中学校

COMING SOON...

本日はご清聴ありがとうございました。

以上で、岐阜市の草潤中学校のご説明を終わらせていただきます。今後、子ども達が願う「新たな形」を求めながら、歩みを進めていきたいと思っております。

本日は お時間いただき誠にありがとうございました。

西濃学園中学校紹介

西濃学園スクールカウンセラー 太田 宣子



西濃学園中学校は、私立の中学校で、2009年に揖斐川町に開校しました。開校して、12年が経ちます。そして、2017年に不登校特例校の指定をいただきました。こちらは、4年目となります。不登校生の社会的自立の支援を目指して、教育活動を行っています。

生徒の構成人数

	男子	女子	寮生	通学生
中1	2	3	4	1
中2	6	2	6	2
中3	16	7	19	4
合計	24	12	29	7

まず、学校の概観から紹介します。少人数の教育を行っており、全校生徒は、現在は36名で、寮のある唯一の特例校ですが、8割の生徒が寮生活をしています。

職員の構成人数

学園長 1人(兼高校)	非常勤
校長 1人	数学、中3国語、美術
教頭 1人(兼担任)	英語3人(兼高校) 計6人
担任 2人	臨床部(兼高校)
副担任 2人 (1人は兼高校)	養護 1人 専任SC 2人
事務 3人(兼高校)	非常勤SC 1人
食事 1人(兼高校)+シルバーさん	非常勤相談員2人 計6人
常勤 14人(兼高校8人)	非常勤 9人(兼高校6人)

一方、職員の数ですが、一見多そうに見えるかもしれませんが、宿直勤務の兼ね合いもあり、ぎりぎりで回しているという感覚が常にあります。

入試・転入のシステムと学費

入試は2回/年(作文と面接)

随時転入可

寮希望の生徒は、見学+体験が必須

学費 入学金200,000円 施設費50,000円

授業料 60,000円/月

寮費(食費込み) 54,000円/月

※奨学金基金を設立中

入試と転入のシステムと学費についてです。寮生は、月に11万以上、かかることになります。親御さん達からは、どうしても高いという声が聞かれます。そのため、来年度からの導入となりそうですが、西濃学園に支援をしてくださっている企業と奨学金基金を設立中です。



学校法人西濃学園中学校

3つの柱

地域

教育

臨床

科目: コラボレイト リカバリー ライフ・プランニング

続きまして、西濃学園中学校の教育内容を紹介していきます。「地域」「教育」「臨床」という3つの柱があり、それぞれに「コラボレイト」「リカバリー」「ライフ・プランニング」という独自の教科がつけられています。

「コラボレイト」では、地域と共に学び合う地域学習を始め、様々な体験学習を行います。「リカバリー」では、取りこぼしたところを学び直し、基礎学力の定着を目指します。「ライフ・プランニング」では、自己理解と他者理解をもとにしたコミュニケーションスキルを育みます。

西濃学園 教育課程表

※表中の()内は標準時間数
※1単位時間は50分

	各教科の授業時数										道徳	特別活動	総合的な学習の時間	コラボレイト	リカバリー	ライフ・プランニング	総授業時間数
	国語	社会	数学	理科	外国語	音楽	美術	家庭科	体育	保健							
1年生	105 (140)	105 (105)	140 (140)	105 (105)	140 (140)	52.5 (45)	52.5 (45)	70 (70)	105 (105)	35 (35)	35 (35)	0 (0)	105 (0)	35 (0)	35 (0)	1120 (1015)	
2年生	105 (140)	105 (105)	105 (105)	140 (140)	140 (140)	35 (35)	35 (35)	70 (70)	105 (105)	35 (35)	35 (35)	0 (0)	105 (0)	35 (0)	35 (0)	1085 (1015)	
3年生	105 (105)	105 (140)	140 (140)	140 (140)	140 (140)	35 (35)	35 (35)	70 (35)	105 (105)	35 (35)	35 (35)	0 (0)	105 (0)	35 (0)	35 (0)	1120 (1015)	
計	315 (385)	315 (390)	385 (385)	385 (385)	420 (420)	122.5 (115)	122.5 (115)	210 (175)	315 (315)	105 (105)	105 (105)	0 (180)	315 (0)	105 (0)	105 (0)	3325 (3045)	

これは、教育課程表です。なんと、総授業時間数は学習指導要領で定められた時間数より多くなっています。

◆2020年度 中学校時刻割 10/5～

1学期 5/15日 授業に特化した1・2年生の、異学年・異学年・異学年。

時	日	月	水	木	金
1時限	英語	英語	英語	英語	英語
2時限	英語	英語	英語	英語	英語
3時限	英語	英語	英語	英語	英語
4時限	英語	英語	英語	英語	英語
5時限	英語	英語	英語	英語	英語
6時限	英語	英語	英語	英語	英語
7時限	英語	英語	英語	英語	英語
8時限	英語	英語	英語	英語	英語
9時限	英語	英語	英語	英語	英語
10時限	英語	英語	英語	英語	英語
11時限	英語	英語	英語	英語	英語
12時限	英語	英語	英語	英語	英語
13時限	英語	英語	英語	英語	英語
14時限	英語	英語	英語	英語	英語
15時限	英語	英語	英語	英語	英語
16時限	英語	英語	英語	英語	英語
17時限	英語	英語	英語	英語	英語
18時限	英語	英語	英語	英語	英語
19時限	英語	英語	英語	英語	英語
20時限	英語	英語	英語	英語	英語
21時限	英語	英語	英語	英語	英語
22時限	英語	英語	英語	英語	英語
23時限	英語	英語	英語	英語	英語
24時限	英語	英語	英語	英語	英語
25時限	英語	英語	英語	英語	英語
26時限	英語	英語	英語	英語	英語
27時限	英語	英語	英語	英語	英語
28時限	英語	英語	英語	英語	英語
29時限	英語	英語	英語	英語	英語
30時限	英語	英語	英語	英語	英語
31時限	英語	英語	英語	英語	英語
32時限	英語	英語	英語	英語	英語
33時限	英語	英語	英語	英語	英語
34時限	英語	英語	英語	英語	英語
35時限	英語	英語	英語	英語	英語
36時限	英語	英語	英語	英語	英語
37時限	英語	英語	英語	英語	英語
38時限	英語	英語	英語	英語	英語
39時限	英語	英語	英語	英語	英語
40時限	英語	英語	英語	英語	英語
41時限	英語	英語	英語	英語	英語
42時限	英語	英語	英語	英語	英語
43時限	英語	英語	英語	英語	英語
44時限	英語	英語	英語	英語	英語
45時限	英語	英語	英語	英語	英語
46時限	英語	英語	英語	英語	英語
47時限	英語	英語	英語	英語	英語
48時限	英語	英語	英語	英語	英語
49時限	英語	英語	英語	英語	英語
50時限	英語	英語	英語	英語	英語
51時限	英語	英語	英語	英語	英語
52時限	英語	英語	英語	英語	英語
53時限	英語	英語	英語	英語	英語
54時限	英語	英語	英語	英語	英語
55時限	英語	英語	英語	英語	英語
56時限	英語	英語	英語	英語	英語
57時限	英語	英語	英語	英語	英語
58時限	英語	英語	英語	英語	英語
59時限	英語	英語	英語	英語	英語
60時限	英語	英語	英語	英語	英語

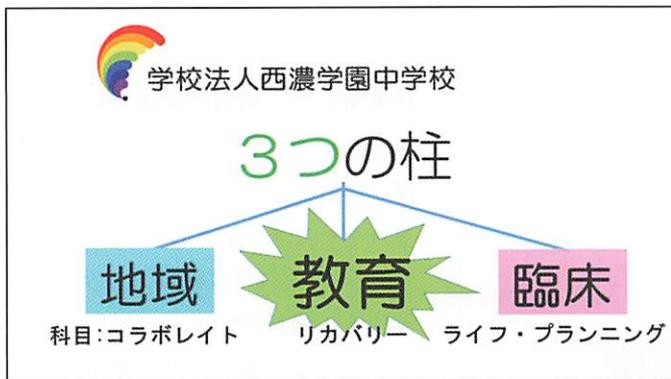
2学期 5/15日 授業に特化した1・2年生の、異学年・異学年・異学年。

時	日	月	水	木	金
1時限	英語	英語	英語	英語	英語
2時限	英語	英語	英語	英語	英語
3時限	英語	英語	英語	英語	英語
4時限	英語	英語	英語	英語	英語
5時限	英語	英語	英語	英語	英語
6時限	英語	英語	英語	英語	英語
7時限	英語	英語	英語	英語	英語
8時限	英語	英語	英語	英語	英語
9時限	英語	英語	英語	英語	英語
10時限	英語	英語	英語	英語	英語
11時限	英語	英語	英語	英語	英語
12時限	英語	英語	英語	英語	英語
13時限	英語	英語	英語	英語	英語
14時限	英語	英語	英語	英語	英語
15時限	英語	英語	英語	英語	英語
16時限	英語	英語	英語	英語	英語
17時限	英語	英語	英語	英語	英語
18時限	英語	英語	英語	英語	英語
19時限	英語	英語	英語	英語	英語
20時限	英語	英語	英語	英語	英語
21時限	英語	英語	英語	英語	英語
22時限	英語	英語	英語	英語	英語
23時限	英語	英語	英語	英語	英語
24時限	英語	英語	英語	英語	英語
25時限	英語	英語	英語	英語	英語
26時限	英語	英語	英語	英語	英語
27時限	英語	英語	英語	英語	英語
28時限	英語	英語	英語	英語	英語
29時限	英語	英語	英語	英語	英語
30時限	英語	英語	英語	英語	英語
31時限	英語	英語	英語	英語	英語
32時限	英語	英語	英語	英語	英語
33時限	英語	英語	英語	英語	英語
34時限	英語	英語	英語	英語	英語
35時限	英語	英語	英語	英語	英語
36時限	英語	英語	英語	英語	英語
37時限	英語	英語	英語	英語	英語
38時限	英語	英語	英語	英語	英語
39時限	英語	英語	英語	英語	英語
40時限	英語	英語	英語	英語	英語
41時限	英語	英語	英語	英語	英語
42時限	英語	英語	英語	英語	英語
43時限	英語	英語	英語	英語	英語
44時限	英語	英語	英語	英語	英語
45時限	英語	英語	英語	英語	英語
46時限	英語	英語	英語	英語	英語
47時限	英語	英語	英語	英語	英語
48時限	英語	英語	英語	英語	英語
49時限	英語	英語	英語	英語	英語
50時限	英語	英語	英語	英語	英語
51時限	英語	英語	英語	英語	英語
52時限	英語	英語	英語	英語	英語
53時限	英語	英語	英語	英語	英語
54時限	英語	英語	英語	英語	英語
55時限	英語	英語	英語	英語	英語
56時限	英語	英語	英語	英語	英語
57時限	英語	英語	英語	英語	英語
58時限	英語	英語	英語	英語	英語
59時限	英語	英語	英語	英語	英語
60時限	英語	英語	英語	英語	英語

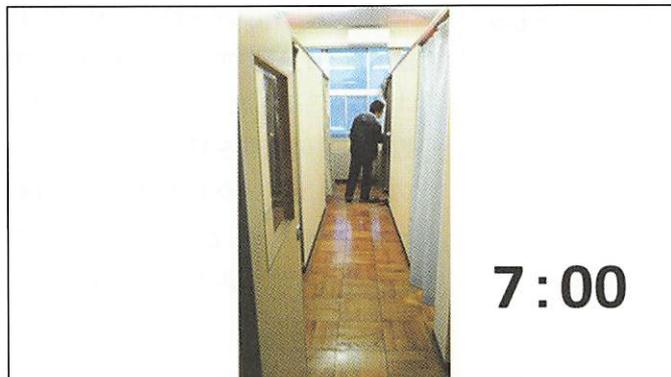
3学期 5/15日 授業に特化した1・2年生の、異学年・異学年・異学年。

時	日	月	水	木	金
1時限	英語	英語	英語	英語	英語
2時限	英語	英語	英語	英語	英語
3時限	英語	英語	英語	英語	英語
4時限	英語	英語	英語	英語	英語
5時限	英語	英語	英語	英語	英語
6時限	英語	英語	英語	英語	英語
7時限	英語	英語	英語	英語	英語
8時限	英語	英語	英語	英語	英語
9時限	英語	英語	英語	英語	英語
10時限	英語	英語	英語	英語	英語
11時限	英語	英語	英語	英語	英語
12時限	英語	英語	英語	英語	英語
13時限	英語	英語	英語	英語	英語
14時限	英語	英語	英語	英語	英語
15時限	英語	英語	英語	英語	英語
16時限	英語	英語	英語	英語	英語
17時限	英語	英語	英語	英語	英語
18時限	英語	英語	英語	英語	英語
19時限	英語	英語	英語	英語	英語
20時限	英語	英語	英語	英語	英語
21時限	英語	英語	英語	英語	英語
22時限	英語	英語	英語	英語	英語
23時限	英語	英語	英語	英語	英語
24時限	英語	英語	英語	英語	英語
25時限	英語	英語	英語	英語	英語
26時限	英語	英語	英語	英語	英語
27時限	英語	英語	英語	英語	英語
28時限	英語	英語	英語	英語	英語
29時限	英語	英語	英語	英語	英語
30時限	英語	英語	英語	英語	英語
31時限	英語	英語	英語	英語	英語
32時限	英語	英語	英語	英語	英語
33時限	英語	英語	英語	英語	英語
34時限	英語	英語	英語	英語	英語
35時限	英語	英語	英語	英語	英語
36時限	英語	英語	英語	英語	英語
37時限	英語	英語	英語	英語	英語
38時限	英語	英語	英語	英語	英語
39時限	英語	英語	英語	英語	英語
40時限	英語	英語	英語	英語	英語
41時限	英語	英語	英語	英語	英語
42時限	英語	英語	英語	英語	英語
43時限	英語	英語	英語	英語	英語
44時限	英語	英語	英語	英語	英語
45時限	英語	英語	英語	英語	英語
46時限	英語	英語	英語	英語	英語
47時限	英語	英語	英語	英語	英語
48時限	英語	英語	英語	英語	英語
49時限	英語	英語	英語	英語	英語
50時限	英語	英語	英語	英語	英語
51時限	英語	英語	英語	英語	英語
52時限	英語	英語	英語	英語	英語
53時限	英語	英語	英語	英語	英語
54時限	英語	英語	英語	英語	英語
55時限	英語	英語	英語	英語	英語
56時限	英語	英語	英語	英語	英語
57時限	英語	英語	英語	英語	英語
58時限	英語	英語	英語	英語	英語
59時限	英語	英語	英語	英語	英語
60時限	英語	英語	英語	英語	英語

時間割を見ると、毎日、ぎっちりだな、という印象を持たれるのではないのでしょうか。不登校特例校なのに、総授業時間数が削られていないというのは、西濃学園の特徴だと思います。



続いて、西濃学園の特徴を紹介しますが、なんといっても、西濃学園は「寮のある唯一の特例校だ」というのがもっとも大きな特徴です。今日の学校紹介では、3つの柱の中の教育について、「生活すなわち教育」という信念とともに、寮生活を詳しく紹介していきたいと思います。



西濃学園の起床は午前7時です。「朝だよ」「起きようね」と宿直の職員が声をかけていきます。宿直は、一晩に3人必要です。朝の声かけには職員の個性が出るかと思えます。



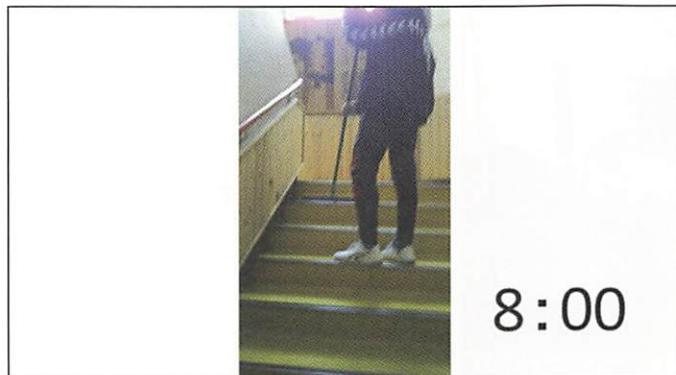
7時20分には、シルバーさん達が作ってくれた朝食を、学園長はじめ宿直の先生が盛り付けを手伝います。この日の朝のメニューは、卵焼き、切干大根、納豆、自由に選べるふりかけ、のり、お味噌汁とご飯でした。



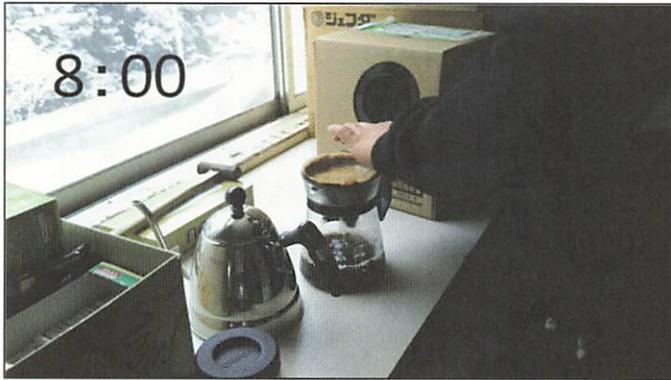
朝食の光景です。コロナ対策のため、一方を向いて食べるようにしています。これまでは、みんなで「いただきます」の挨拶をしていましたし、おしゃべりをしながら食べたいところですが、話すことは現在、禁止となっています。



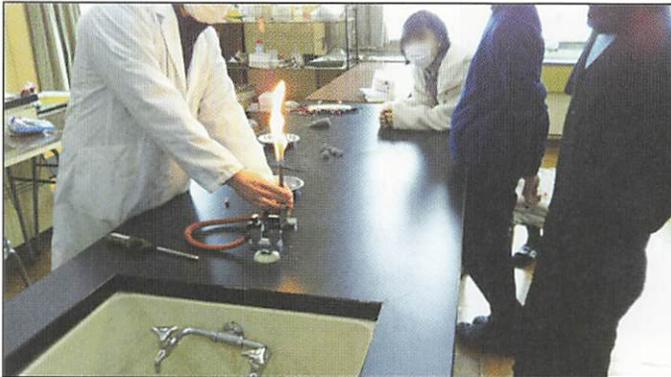
西濃学園の朝には、自主清掃をしてくれたり、学園の生活に必要ないろいろな活動をしてくれる生徒がいます。西濃学園の冬は、とにかく寒いので、授業の前に各部屋のストーブの灯油をしっかりと入れてくれる生徒がいます。厳しい自然の中では、助け合って生きるしかなく、生徒達は自分のできる活動を担ってくれます。今年は、雪かきひとつとっても、頑張ってくれました。



西濃学園は、いろんな方が訪れてくれるから、と玄関から職員室に続く階段をいつもきれいにしてくれる生徒もいます。



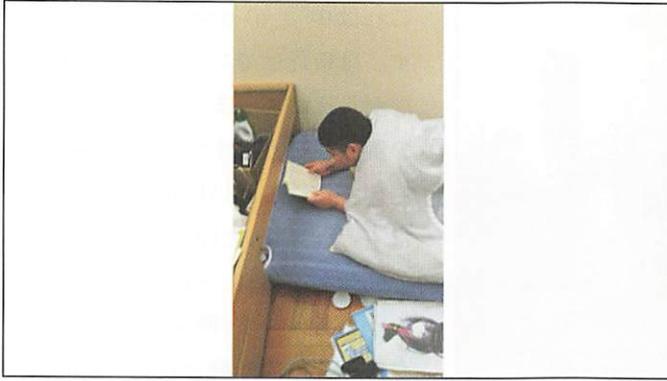
自主清掃をする生徒がいる一方で、職員室でコーヒーを淹れる生徒もいます。中1の男子生徒ですが、入学時は外から見るとささいなことで暴力行為を起してしまうことが毎週のようにあったのですが、コーヒーを淹れることに凝りだして、それが自分の心を落ち着けることにもつながっているみたいなので、こうやって毎朝、職員室でコーヒーを淹れることになりました。振る舞ってくれるコーヒーはとてもおいしいです。



続いて、授業の風景をご覧ください。中2の理科の授業の様子です。生徒達は、実験が大好きなので、積極的に取り入れています。



これは中3の数学の授業の様子です。中3のように人数が多いと、といっても20人ちょっとですが、複数の先生が入って、生徒の理解のサポートを行います。



やっぱり授業に出ない生徒もいます。自室で、小説を読んでいる生徒です。担任と、自分のペースを相談しながら、自分がちょっとやってみてもいい、というところを目指していきます。



授業に出なくて、こうやって職員室に来て、ものおもいにふけったりしている生徒もいます。



生徒達はみんな職員室が大好きで、休み時間になると、にぎやかな職員室です。密は注意しますが、注意しても注意しても、というところがあります。



これは中 3 の社会の授業の様子です。黒板だけでなく、映像を使用しながら進めています。先ほどの理科の実験もそうですが、西濃学園では、生徒と相性の良い授業を工夫しています。「多重知能理論」によると、8つの知能があり、得意な知能を活かそうと考えます。西濃学園の生徒は、身体・運動的知能と視覚・空間的知能が得意な子が多い傾向があります。

一方、言語的知能は苦手な傾向があるので、言葉だけの説明ではなく、実験で手や体を使ったり、映像などの視覚的手がかりをたくさん使って、興味や関心を持ちやすく、また分かりやすい授業を工夫しています。板書はしてもなくても自由なので書くことが苦手な子も見たり聞いたりして理解していますし、全員挙手もありません。自分の形で学べることを尊重しています。

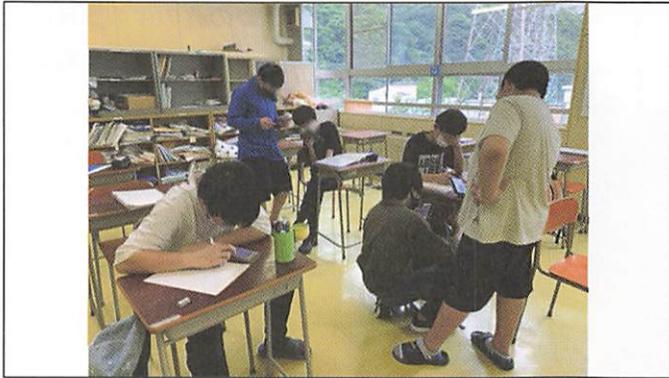


この社会の先生は、もう一つ、大切な科目を担当してくれています。コラボレイトの地域学習という時間です。今年はコロナの事情で、地域の方々と一緒にすることはできませんでしたが、このように、校内発表会を行い、カメムシとの共存について発表しました。カメムシは、日本では1300種類、世界では2万5000種類存在するなど、西濃学園の生徒は

カメムシについてスペシャリストとなっています。でも、今年地域学習は、発表の形態だけでなく、学び方も、コロナ事情で大きく様変わりしました。



これは、昨年の地域学習の学びの時間の様子です。地域のお年寄りの方にインタビューをしたり、質問をさせてもらって、調べ学習を深めていました。



が、今年は、スマホやパソコンを利用した調べ学習をすることになりました。



昨年までは、毎年、お祭りで神輿を担がせてもらって



夜になると、村を練り歩いて、地域の方々からねぎらっていただいております。



昨年10周年を迎えた、奥穂高や槍ヶ岳といった北アルプスへの夏山登山も、西濃学園の大切な教育活動ですが、今年はいきなりめざるを得ませんでした。また、行えるようになる日を待っています。



西濃学園の3つの柱の中の臨床の活動として、大切にしている全職員で行うケースカンファレンスも、今年はリモートで行いました。いろいろな変化がありました。



12:20

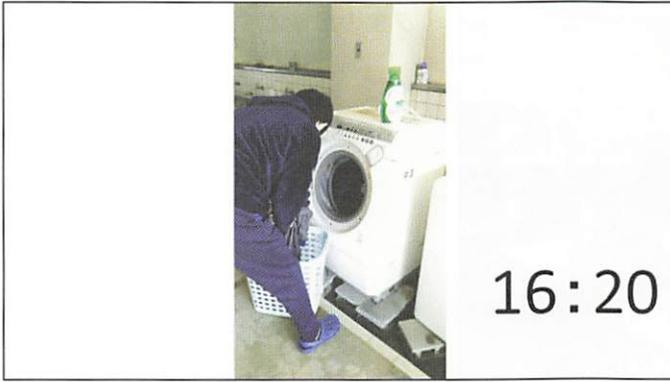
それでは、もう一度、寮生活の紹介に戻りたいと思います。

お昼ご飯を食べて、午後も6時間目、あるいは7時間目まで授業があります。



16:20

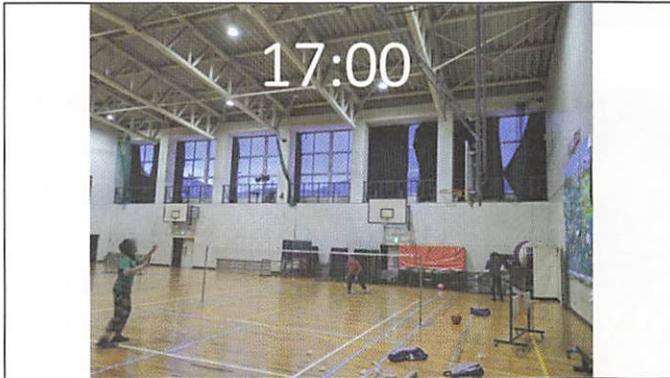
ここからは、放課後の過ごし方のご紹介ですが、近くの温泉に入浴に行くところです。コロナのため、一度にたくさんの生徒が入浴に行くと、地域の方々も抵抗を感じるのではないかと思います、6人を1グループとし、7グループに分けて、密にならないように入浴しています。それでも、脱衣場で、学園生がしゃべっているとお叱りを受けることもあり、地域の方々には育てていただいているなあと思うところです。



寮生は、洗濯も自分でやらなければなりません。先輩に教えてもらって、できるようになっていきます。



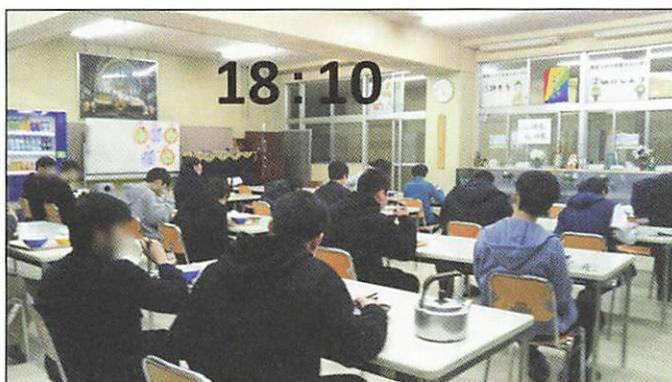
これは校内の購買の様子です。近くのコンビニまで、車で30分はかかる立地なので、生徒会がお菓子や飲み物を買出しに行き、リーズナブルに販売してくれます。



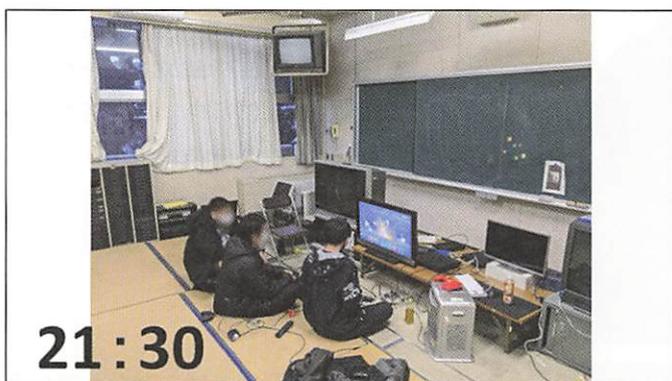
放課後は体育館で体を動かしている生徒も多くいます。野球部、陸上部、バトミントン部、軽音部、模型部、ボードゲーム部など、生徒がやりたがると立ち上がるクラブ活動もあります。



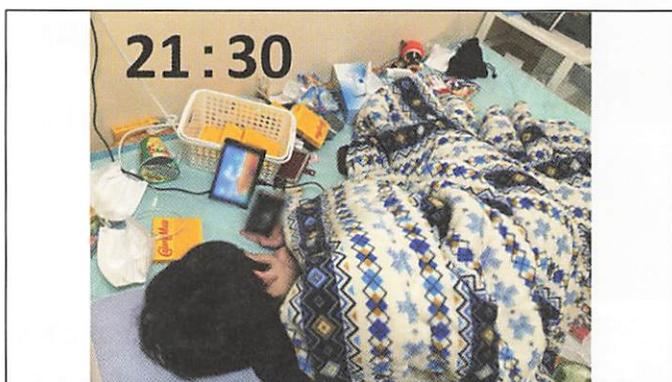
そうこうしているうちに、夕ご飯の時間です。この日は、鶏のさっぱり煮と大学芋、ミネストローネとご飯といった食事でした。



夕食の風景です。



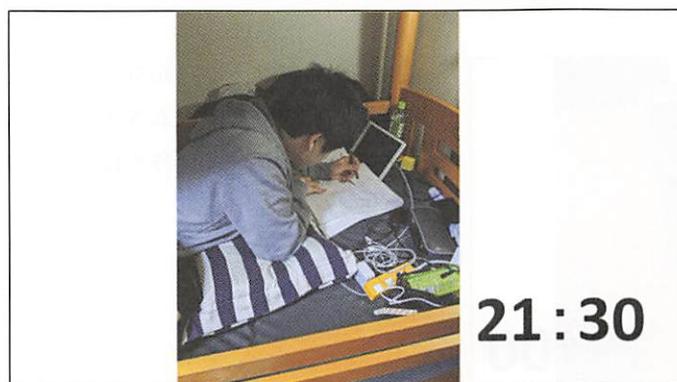
これは、夕食後、談話室というみなで遊ぶことのできる部屋でゲームをしている様子ですが、現在は、最大6名の制限を設けています。



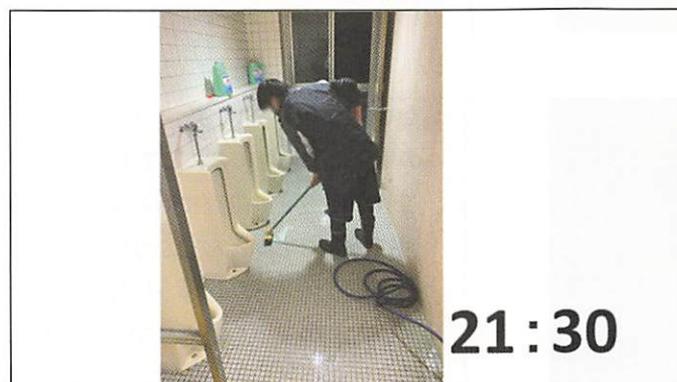
自分の部屋で、一人でゲームをする子どもとも増えました。コロナ対策の一環で、談話室の人数制限を設けたため、どの部屋にいてもWi-Fiが使えるようにネット環境を整えました。コロナ対策として、自室で一人で過ごすことは、必要なことだったわけですが、生徒同士のかかわりが変わったなとも思います。地域学習の調べ学習が、地域の方へのインタビューからスマホに変わったことをお伝えしましたが、ICTを十分利用しながらも、西濃学園ならではの人のつながり方をどうしていくか、生徒達と一緒に生活しながら作り上げていく課題にもなりそうです。



もちろん、ゲームをしている生徒だけではなく、学習室で学習をする生徒もいます。



自室で学習する子もいます。



朝はできないから、と夜のうちに清掃活動をやってくれる生徒もいます。



就寝は11時なので、その前になると歯磨きをします。



また、就寝時間前になると、職員がDIYで作ってくれた棚に、携帯とゲームを片付けにきます。



就寝時間になるとこんな感じです。誰が、スマホやゲームを出していないか、分かりやすい作りにもなっています。



そして、就寝時間です。トイレの廊下側の電気はつけたままにしておきます。これが西濃学園の寮生活および一日の過ごし方です。どんなふうに生活しているのか、どんなふうに授業を受けているのか、少しでもリアルに伝わればうれしいなと思います。とにかく人と人のかかわりがふんだんにある学校生活ですが、一人ひとりの生徒達が、「人ってしょうもないところもあるけど、そんなに悪くないかも」と思える体験ができるとうれしいなと思いながら、日々の教育活動を行っています。今回は寮生活を中心とした学校紹介をさせていただきました。ご清聴ありがとうございました。

私の礎、私の未来

西濃学園中学校3年 小野木 涼 香

「ねえねえ、高橋さん。あっゴメン、小野木さん…。」両親が離婚した中2の夏。名字が変わったあの日から、クラスメイトも先生達も私との関わりに戸惑っているようでした。私は、気楽に話せた昨日までの関係にはもう戻れないと思っていました。

そのちょうど1年前の母との買い物帰り、自宅に着いた車の中で母が突然言った。「ごめん…、家に帰るのが辛くて。1人で帰っててくれないかな。」聞いた時はショックでした。でも私が車を降りた後1人で行ってしまふ母を見ていると、もうこれで父と喧嘩ばかりしている姿を見なくて済むと思いました。

母がいなくなった家では慣れ親しんだ環境が変わってしまいました。洗剤やトイレトペーパーの匂いも何もかも。父のことは嫌いではありませんでしたが、早朝からの仕事で私とは時間が合わず会話も減って、だんだん上手くいかなくなっていました。しばらくして私は妹と母の元で暮らし始めました。

そして中2の夏、名字変更。家族のことを聞かれるんじゃないか、親のことを悪く言われ可愛そうな子というレッテルを貼られるんじゃないかいつも身構えていました。何より、私の名字を呼び間違えた後の『しまった』という相手の顔がたまらなく嫌でした。

それから3カ月後、小さくなっていた母の声がだんだん大きくなり、明るさを取り戻していく姿を見ていると『離婚して生まれる幸せだってあるのかもしれない。』そう思うようになりました。

でも私の周りでは「子どもは親が2人揃っていないと良くない。片親の子は可愛そう。」と考える人ばかりでした。たしかに両親が揃った豊かで温かい家庭がいいとは思いますが。けれどそのような関係がどうやっても保てず家族が苦しむだけならば、その考え方が本当に当たり前なのか1度見直してみてもどうでしょうか？

笑顔が増えた母を見るにつれて強がりではないこの気持ちは、だんだん大きくなりました。そしてある日、両親の離婚を経験された先生に打ち明けたところ、なんと先生も私と同じ気持ちを抱いたことがあったのです。『もしかしたら、片親の子を可愛そうな子とは思わない人達もいるのではないか。』と考えるようになり、私は先生に相談してクラスの

仲間と先生方にアンケートを取って聞いてみることにしました。

“離婚は家族を不幸にしますか”という問いに対し、約 60%の人達が【不幸にするとは限らない】と考えていました。特に私と同じ境遇の仲間は、実体験からそう答えていました。また“離婚を決断するとき、誰のことを一番に考えますか”という問いに対して【子ども】との回答が全体の約 80%も占めていました。

私はこの結果から考えたことがあります。それは『両親が揃っていることだけで家族が幸せになれるのではなく、私達子どもが幸せであることが家族の幸せにつながっていく』ということです。だから私は、家族が幸せであるために私自身が幸せでありたいと思っています。そのために、片親の子は可愛そうというレッテルに胸を痛めることなく、明るさを取り戻した母の姿を自信に変えて、堂々とこれからの生活を送っていきたいです。

私にとって父は今でも大切な存在で、父親としての立場は何も変わっていないのに、名字が変わったことを思うと本当はやっぱり寂しいです。でも“高橋”として生きた14年間はいつまでも変わることなく私の礎であり続けます。“小野木”として生きるこれからの私をその礎に積み重ね、家族の幸せを、私の未来を胸を張って築いていきます。



4. 第二部 シンポジウム

丹羽：それではこれより後半の部、シンポジウムへ移ります。まず、リモートで参加していただいている先生方から、ご紹介させていただきます。スクリーン左上より、文部科学省初等中等教育局児童生徒課生徒指導室課長補佐、廣石孝様。

廣石：よろしくお願いします。廣石です。

丹羽：次に、スクリーン左下、元文教大学教育学部教授、嶋野道弘様。

嶋野：司会をさせていただきます。嶋野です。よろしくお願いします。

丹羽：嶋野先生にはシンポジウムの司会をお願いしております。次に、スクリーン右下より、岐阜市、不登校特例校設置アドバイザー、岐阜大学大学院医学系研究科教授、小児神経専門医、加藤善一郎様。

加藤：岐阜大学の加藤と申します。小児科医として、多くの不登校のお子さんを普段から診療しておりまして、現在、私の患者さんのほぼ9割が不登校の患者さんということで、そういう縁もありまして、今回アドバイザー及び、4月からは草潤中学校の心の校医ということを承る予定であります。よろしくお願いいたします。

丹羽：次に、会場にお越しいただいている5人の先生方をご紹介させていただきます。スクリーン右上をご覧ください。岐阜市教育長、早川三根夫様。

早川：岐阜市の教育長の早川でございます。よろしくお願いします。

丹羽：岐阜大学特任教授、日本学校教育相談学会岐阜県支部理事長、古田信宏様。

古田：岐阜大学の教職課程支援センターで特任教授を務めさせていただいております。古田です。よろしくお願いします。

丹羽：岐阜市教育委員会、草潤中学校設置準備室長、井上博司様。

井上：特例校設置準備室の井上と申します。よろしくお願いいたします。

丹羽：西濃学園学園長、北浦茂。

北浦：西濃学園の北浦です。よろしくお願いします。

丹羽：西濃学園スクールカウンセラー、太田宣子。

太田：西濃学園スクールカウンセラー、太田宣子と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

丹羽：以上、8名の皆様で、このシンポジウムを進めていただきます。それでは嶋野先生、よろしくお願いいたします。

嶋野：学校紹介、小野木さんの少年の主張、相当な感動をもって聞かせていただきました。これからシンポジウムにあたり、最初に建学の精神ということをお尋ねしたいと思います。西濃学園中学校は開校以来12年、不登校特例校4年、草潤中学校はこの4月からスタート、時間の違いは少しありますが、学校を設立するというその背景には共通的なものはあるかと思えます。

ここで建学の精神を西濃学園学園長北浦さんからお願いいたします。

学園長：私は昭和50年代の当初、高校で教師をしておりました。その時、神経症的な症状を示す不登校生と出会いました。当時は登校拒否と呼ばれていて、大方の見方は「本人が甘いのだ」という考えが多く聞かれましたが、私は彼らと接していく中で、決して甘さだけで解決できるようなものではなく、また、異常者でも無い、ごく普通の子どもであるというふうに感じておりました。しかし、われわれ教師の情熱だけではなんともいえないということ突きつけられました。お迎え登校したり、自宅に泊めたり、個別の面接を繰り返したりしたけれど、家庭訪問をしたらさっとトイレへ入り込んで、一切応答してくれないというような異議申し立てを受けたことが多くありました。そんな時に、当時名古屋大学でグループアプローチによる合宿による支援というのを池田豊應先生が研究されておりました。夏休み3泊4日の合宿をされているのに参加をさせていただきました。この参加を機会に、「こういったグループアプローチが学校教育の中に取り入れることができるのではないか」ということを感じ取り、その後、私ども有志の教職員と、大学で心理学を学んでいる学生達と、大垣で13年間ボランティア活動をしました。そのボランティア活動をする中で、5泊6日のサマースクール（合宿）をしながら、子どもをどう支えていったらいいのかということずっと考え続けておりました。そんな時にこの揖斐川町の揖斐高原でゴルフ場が廃止になり、そのクラブハウスが空いたのを機会に、そこでフリースクールを創設し、実際に24時間彼らと生活をしながら彼らに寄り添いながら彼らの自立というものを勉強してまいりました。その後5年間経ち、この揖斐川町の藤橋にて、藤橋小中学校が廃校され、揖斐川町から校舎をお借りし、学校法人西濃学園を設立いたしました。

子どもの教育は、一つは寮生活をする、これが大きな基本であります。生徒と共に寝食を共にする。二つ目は地域と共に生活をする。村落共同体の一員として、子ども達が入り込むことができないだろうか、地域の方々のお祭りや行事、全てに子ども達が参加をして、地域の人達との交流を通じて、人と人との関係を学んでいくということを考えました。もう一つはわれわれ教師だけの力ではどうにもならない、子どもの行為の意味がわからない、ということを実感して思っていました。臨床心理学の力がものすごく大事だということを感じ取り、臨床心理学の力をお借りする、こういうことでその生徒一人ひとりにカウンセリングを行い、あるいはわれわれ教師がそういう知識を身につけながら、その生徒を観察したことを全職員が共有する、そういう会議を定期的に関きながら、子どもを理解していくということをやっております。もう一つは、できるだけ本物を生徒に体験していただきたいということです。日本の代表する山へ連れていくということを考え、3000メートル級の山を生徒と共に登る、これは生徒も大変ですが、われわれ職員も命懸けでやらなければならない、一つの行事です。ですが、その体を張ったその行事が生徒との間に葛藤を起こしたり、交流を深めたりして、帰ってきた時にはすごく大きくなってきてと感じ取っております。また、文化的なことも毎年名古屋へ行き、劇団四季と一緒に鑑賞する。そういったことを生徒と共に体験しながら、生徒が自分を見つける一つの学校になったらいいなということでこの学校を進めております。

「親は先に死ぬ、私達が死んだら、子どもが一人で飯食っていけるようになって欲しい」ということを親御さんは私どもに訴えてきます。私どももうちで学んだ生徒がいろんな体験をして、学習をして、社会に出て、納税者となって欲しいというようなことを考えて現在活動を進めております。

嶋野：ありがとうございました。どんな経緯で、どんな思いで、どんな学校を作ってきたのかということがすごく伝わってまいりました。ありがとうございました。それでは続いて、草潤中学校を設立されてこられました、教育長の早川さん、お願いを致します。

早川：はい。岐阜市の早川でございます。岐阜市中心部の学校の跡地利用の活用の中で、西濃学園をはじめとした、不登校特例校に注目したわけでございます。昨年度で、本市の中学生で、437名が不登校30日以上という現実でございます。家庭は多様で、学校も多様であろうと努力していますが、結局のところ、一様にならざるを得ない。学校のあり様に、適応している子は教育効果が高いが、そうでない子には苦しい場所になっている。そうした中で一昨年、本市で、いじめ重大事態が発生しました。多くの中学生とその後、ディスカッションしてまいりましたが、彼らは言います。「成績を良くするために、様々な役割演技を強いられている」「先生に話したいことがあるけれど、忙しそうで話しかけられない」「僕らは大人が思っている以上に複雑な世界に生きている」と言ってくれました。学校に適応できない子がいることは、自然なことではないか、多様な学びの在り方を、市全体で確保しなければ

ならない。従来型の共通のゴールに向けた教育からの変換、画一的レディーメイドから個別最適化されたオーダーメイドへ、学びは多様にしなければいけないということです。中高生の中に不登校であった子の8割近くの子は経験を乗り越えて進学し、社会で働くことができおり、不登校はほぼほぼ人生に決定的な影響を与えないようにしなければなりません。学校への復帰を目標にするのではなく、社会的自立を目標にすることで、子ども達の持っている社会や学校に対する違和感が次の時代を作り上げることも少なからずあります。不登校であったという著名人は沢山いるわけですし、将来の大きなハンディにならないよう、自分が社会から受け入れられていると感じる場が必要になると思います。多くの子どもにとって、地域の学校は依然として魅力あふれる場所です。しかし、すべての子に、今の学校の在り方が望ましいというのには疑問があり、適応に苦しんでいる子どもは増えています。不登校になることは、学びの場をなくし、その可能性の芽が摘まれることを防がなければなりません。あなたが学校に合わせるのではなく、ありのままのあなたを受け入れる、もう一つの学校がありますというのが、今春開校の、不登校特例校、草潤中学校のコンセプトです。

草潤中は、一人ひとりの生徒と相談の上、カリキュラムを作り、登校とオンラインを必要に応じて、必要なだけ、適宜、選べる学び方になります。学校の常識とまずは180度逆の発想を持って、市全体で学びの多様性を保障するよう、位置付けてまいります。本市には子どもや保護者のあらゆる悩みの相談に乗る、100人以上の専門職員を有する、子ども若者総合支援センター、エールぎふがあり、多様な支援をしております。草潤中はエールぎふと連携し、西濃学園、フリースクール等との、他の居場所との情報交換をし、包括的な体制作りの中核として、位置付けていきたいと思っています。心の校医として、加藤先生からは、医学的なアドバイスを受けることができることも大きな特色であると思っています。さらに、その成果が一般の学校でも活かされ、特例校的なカリキュラムを実践できる教育への展開に発展させていければと思っています。この教育機会確保法は素晴らしい法律で、全ての子どもに、教育機会の確保という理念の実現のために、学びの場は多様になることが必要となります。今後、一定規模以上の自治体には必要な学校となると思っています。子ども達の持っている潜在能力を開花させたい。草潤中学校は不登校のための、不登校の子のための学校だけではなく、未来の学校にしていければという風に思っております。以上でございます。

嶋野：ありがとうございました。建学の精神と申し上げましたが、ここに原点があるという感じでお話を承ってございました。今日のシンポジストの皆様はどのように受け止められたのかおうかがいしたいと思います。初めに、古田さんお願いします。

古田：まず、この岐阜県内で二つの不登校特例校ができるということをととても嬉しく思っております。不登校の子を持っている保護者の方にとってもすごく心強い、そういう県になったな、そんなことを誇りに思いたい、そんな風に思っております。

二つの中学校の建学の精神、コンセプトの中で、ここは相当共通しているなと思っていることを、大きく二点感じました。まず一つは、生徒の、子どものありのまま、そのままを受け入れるということ。草潤中学校さんの方では「ありのままのきみを受け入れる」という言葉をはっきり出していますし、それから西濃学園さんの入学のパンフレットには「そのままおいでよ」という言葉があったかと思えますけど、こういった言葉が子ども達にはすごくありがたいことなんではないかなと思ってます。これまでは、新しい集団に入るときは、自分を変えなくてはいけない、学校に合わせて自分を変える、ということが望まれてきたのですが、そうではなく、あなたに合わせて学校を作っていきますよ、学校の教育課程を考えていきますよ、という。そんな学校ができるって本当に素晴らしいことだなんて思います。ちょうど文科省の方からも個別最適化ということをかなり言い聞かされてきておりますが、多様な学びというのをぜひ実現していただけたらと思っています。

先ほどのお話の中では、草潤中学校の井上さんの方からは、「突出した能力を見つけ、伸ばし、生かす」という言葉があったと思います。そして西濃学園の太田先生の方からは「得意な知能を生かす」という言葉がありましたけれども、これもまた同じコンセプトに基づいた発言だと思っています。ただ私、ふっと思ったことは、それってどの学校においても本来目指すことなのではないかなという気がするんですが、それでもやはり、どの学校でもできるかっていうと、どうしたってできないってことはあるよな、と。私、今大学の方に勤めておりますが、大学を卒業してから38年間小学校を中心に教員をやっておりましたので、どうしたって集団に合わせてもらわないと困るってこともいっぱいありますし、集団のルールに従っていくということは、やがては社会のルールに従っていくことにつながっていくことにもなるので、そういった面を疎かにすることはできない。そういった中で自分を無理に変えなくても、あなたのペースで進めていくなかで、うまく適応できるところを見つけていきましょうという考え方に、僕は大いに賛同したいと思います。その具体的な形として、教育課程の柔軟性というところも出てくるかと思うのですが、おもしろいことに草潤中学校さんの方では減らそうとしているし、西濃学園さんの方では増やすということになっていますが、結果として、今そうなっているということで、きっと今後その子達に合わせていったらもっといろいろな形がきっと出てくるんじゃないかっていうことを考えています。

さらに従来の教科ではなくて新しい教科を創設されているっていう点でも二つの中学校共通していることだと思うのですが、私、自分の教育人生の中で特別支援教育に関わった期間が結構あるんですが、教育課程を柔軟にして新たな教科を作っていく点で言うと、特別支援教育、特に知的特別支援学校の教育課程とかなり近いということが入ってくるのかなって思っています。ただ特別支援学校の方はある程度やっぱり枠があるんですが、その枠から外れた、というか飛び出していくような新しい考え方、というのが出てくるのを楽しみにしています。私からは以上です。

嶋野：古田さんの「ありのままを受け入れてくれるのはありがたい」というフレーズは響きました。なるほどねと思いました。続いて同じ質問ですが、加藤先生お願いいたします。

加藤：はいよろしく申し上げます。普段は医者という立場で不登校のお子さんやご家族、先生方と一緒に歩んでいます。今年も多くのお子さんが元気になられ、ご家族の方も元気になられて、私の外来を卒業されております。しかしながら毎週、新しい不登校の方が何人も来られているのが実態で、常時100家族以上と継続して関わっており、私の外来では一人では手一杯という状態です。

私の方で長く皆さんを見させてもらっている中で感じていることとして、私は「だいじょうぶ感」という言葉を使っております。「自信」というものとちょっと違いますが、その「だいじょうぶ感」という安心が著しく減っている状態により不登校になっていると考えております。お子さんの知的特性や発達特性に注目して、診断・医療的介入を含めて、まず家庭での「だいじょうぶ感」をアップするということを目標にしております。

最後に残ってくるのが、もともとの学校の問題ですが、今の学校では受け入れてもらえないという問題が現実であり、先生方も受け入れ方がなかなかわからない、実際には適応できないということがあるわけですね。その「だいじょうぶ感」を育むという観点から見ると、両校の建学そのものは非常にありがたい。いわゆる患者さんを見ている立場からすると、ありがたいでしょうがないというのが実際です。

西濃学園さんに関して言うと、現場からボトムアップでニーズをちゃんと立ち上げていって、的確に対応されているんじゃないかなと感じています。特に中学生ですが、オプションまたはオルタナティブとして、高校を選択する時には通信制高校というのが今非常に注目されていますし、私の患者さんも通信制高校に入っていく方が多いわけですが、そこで自分の意思で選択できたお子さんは楽しく暮らして大人になっていかれるわけです。しかしながら小学生や中学生にはそういったものはほとんど無く、歯痒く思っていました。高校へ行くまで待たないといけないという状況が未だにあります。その中で西濃学園さんは早くから重要な存在であり、わたしの患者さんも何人もお世話になっており、特に寮生活で、自分を取り戻して元気になって卒業されていていっている。西濃学園さんには建学の精神と底力と経験がおりなのかなと思います。

今回、草潤中学校さんに関わらせていただいておりますが、最も大事なものは、「公立として可能である」ということを示したということですね。全国的には公立学校の不登校特例校もあります、特に岐阜地域で言いますと、公立にオプションはあまりなかったです。参加できるメインの生徒さんは40名ですが、それだけではなく、岐阜県全体、他県も含めて非常に影響が大きいと思います。普通校のあり方を見直すとてもいい試金石になっているのではないかと思います。

すでにその効果は始めている、生徒さんから草潤中学校でできることならば、なんで今の学校でできないんだろうという質問も受けているし、そういう考えもうまれてきます。公

立学校の先生自身からも特例校が公立という枠組みでできるんだということで非常に安堵と、ある意味期待を持ってみていただいている。その事実だけでもスタートさせる前から期待値が非常に高いのではないかと思うし、いかに実践していくかということになってくると思います。

嶋野：ありがとうございました。大変印象的なのが、自己肯定感を高めるとよく言われますが、加藤さんのお話の中では、大丈夫感をアップする、というのは、非常に鮮烈な言葉なので、興味深くお聞きしました。二つの学校とも、そういう役割を果たしているのかな、とお聞きしました。ありがとうございました。

えーっと、太田さんは、西濃学園設立当時からかかわってこられたと思うんですけど、その背景にはこの建学の精神とか、北浦学園長の心意気とか、そういうものに感化されているものがあるんだと思いますが、二人のシンポジストのお話もうかがいながら、どのように受け止めたでしょうか。

太田：西濃学園の設立当時から一緒にやってきたものの立場として、早川教育長のお話、そして、改めて学園長のお話を聞いていて、お二人とも理想というもの、こういう教育が子ども達のために必要なんじゃないか、社会のために必要なんじゃないか、という壮大で熱い理想を感じさせてもらいました。日々、学園長のそばでその背中を見ていると、私利私欲が本当になくなって、私欲まみれの私からすると、学校を創るということを通して、すごい人生を歩まれているなあと思いながら、その背中を見てきたわけです。20年くらい前になるかと思いますが、廃校があったときに、その廃校を利用させてもらって、学校創りを進めさせてもらえないかと交渉に行ったときに、その村の方達に、不登校生の子も達はどうな子ども達かわからないから、危険だから、不安だから、という理由で断られた経験もしていることも思い出しましたが、こちらが子ども達のためなんだ、社会のためなんだ、というような理想を掲げていても、それが地域の人や保護者や子ども達と、本当の意味で共有できるには、とても時間がかかったなあという感覚があります。日々、嘘のない生活の姿、というのを共にしながら、そこではじめてこちらの伝えたい理想や思いというのが、じわじわと分かってもらえるんだなあという実感です。その過程では、変わってきたもの、もちろん変わっていないものもありますけれども、「共に創り上げる」ものとして「建学の精神」がありました。この共に創っていく、という建学の精神を活かした日々の教育実践があって、それは今日まで続いているなあ、これからも続いていくといいなあ、「建学の精神」ということでは改めて振り返らせてもらいました。

嶋野：ありがとうございます。建学の精神を基に、長年、学園長とともに歩みをともしながら太田さんならではのお話かなあとうかがいました。

それでは、草潤中学校の設立準備を中心になって進めてきた井上さん、皆さんのお話をど

のように受け止めたか、お話しいただけますか。

井上：生徒が学校に合わせるのではなく、学校が生徒に合わせる、そんなこれまでにない学校らしくない学校を作ること、不登校の子ども達の新たに選択肢となれるような準備を進めてきました。いろいろな制度設計をするにあたって、いろいろな方からご意見をいただいたとき、不登校対応の専門家ではない私が今まで30年以上教員をやってきたしがらみというのか、固まった考え方でやってきたことを改めて感じました。たとえば、ありのままの君を受け入れる、新たな形というキャッチフレーズを最終的には掲げているのですが、ここにいたるまでにいろんな案がありました。例えば、新たな形の新たな学びを求めていこう、とか、草潤中学校の草潤という意味にちなんで、磨けば必ず光るよ、というキャッチフレーズも候補として考えたのですが、そんな候補を挙げたときに、アドバイザーの方々からいただいた意見が、磨けば必ず光るよ、って言うことは、光らないといけないと考えているんですか、光らないとダメなんですか、中学校3年間で光るという結果があらわれないとダメなのですか、と。さらには、磨けば、と言っているけれど、無理して磨かないといけないんですか、今の自分のそのままではいけないんですか、とそんなアドバイスをいただいたときに、全く分かっていない自分というのを感じました。

また、通信制の高校に通っている生徒に話を聞くと、休み時間が休み時間じゃなくて、息苦しかった、全く息を抜く時間がなかった、あそびとかゆとりがないというのは大変だった、と。その話を聞いて、それを求めていた自分に気が付いた、という時間でもありました。そんなことで最終的に作ったキャッチフレーズが、ありのままの君を受け入れる新たな形、というテーマなのですが、この中には無限の可能性があると思っています。今までの学校らしい学校の決まった概念を取っ払うと、こんなこともできるんじゃないか、ひよっとするとこんなこともやれるんじゃないか、という可能性がいろいろ浮かんで来て、今その準備をしています。まだ、我々は、全く実践を積んでいません。後、一か月半後に迫った開校までに精一杯の準備を進めますが、新たな形というのはこれから子ども達と一緒に作っていくものだろうな、ということは今またみなさまのご意見をいただきながら感じました。

嶋野：これまた本当にいいお話を聞きました。ありのままのきみを受け入れる、新たな形。このキャッチコピーにはアドバイザーの方々の意見が色々あってその経緯があってこれできたという話は本当に感動的でした。小野木さんの少年の主張の中に、「当たり前を見直す」という話があったんですけど、こことすごく繋がったんですね。「当たり前を見直していくと、世界が拓かれる」というお話は、本当に感動しました。

廣石さん、建学の精神についてどのように受け止められたのか、また不登校特例校は全国にたくさんあるんですけど、これについても少しご説明をいただければありがたいと思います。

廣石：簡単に不登校の概要と不登校特例校の概要を説明させていただこうと思います。不登校については報道等されている通り、7年連続で全国的に増加しています。岐阜県も増加しているという状況だと思います。義務教育段階で見ますと、全国で18万人が不登校（年間30日以上欠席（病気等以外で）しているという定義）です。18万人のうち、約3000人が岐阜県で不登校とカウントされている状況です。学年別に見ると、小学校1年生が一番少なく、中学校3年生が一番多い。学年が上がるにつれて不登校の数は増えています。特に中学校に進学する段階では中1ギャップと言われておりますが、不登校生数が跳ね上がるというのが全国的な傾向になっています。そういった中で不登校の問題というのは、かねてより生徒指導上の問題という観点ではずっと取り組まれているところではあります。そういった不登校児童生徒の個の状況に応じた支援をしていこうという取り組みは、国や自治体においても例えば、教育支援センターといわれるような学校以外の場における指導、相談またはフリースクールなどの民間団体等と連携して居場所を作っていくという取り組み、そういったものが全国各地で行われています。先生が家庭訪問したり、スクールカウンセラーのカウンセリングを行ったりという、学校における取り組みも充実が図られてきているところですが、実際不登校の数は増えているのが現状です。

不登校特例校は平成17年からスタートいたしました。もともと構造改革特区という仕組みからスタートしましたが、平成17年から全国的に設置が可能になった制度であり、文部科学大臣が指定を行います。指定が行われると何が特例になるのかということ、不登校児童生徒の実態に配慮した特別の教育課程を編成することができるという所が大きな特徴となっています。学校においては公立私立を問わず、学習指導要領に則って標準授業時数約1000時間ですが、全国的に定められた内容や学習時間を確保していくということが決められています。しかし、特例校として認定されますと、新たな教科を新設することができたり、地域との交流や体験活動なんかを中心に行うような授業を新たに新設して、その代わりに既存の科目の時間数を減らすといったことができるようになります。また全体の標準授業時数一定程度削減をする、または増やすことができる。今、西濃学園さんは増やしていて、草潤中学校さんは今後、減らすということを選択されている。そういった特例を行うことができます。これまで教育支援センターとかフリースクールとか柔軟な相談指導してきていますが、やはりそこ一線を画するところとしては、当たり前ですけど「学校である」という所が大きく違うところなのかなって思っています。不登校特例校は平成17年からスタートしていますが、全国でわずか17校しかありません。草潤中学校さん含めて17校になっています。公立が8校で、私立が9校で、全部で17校しかないのですが、その中でも岐阜県に2校あるということで非常に大きなエリアになってくるかなと思っています。平成29年以降で7校増えています。先程の学校からの説明にもありましたが、教育機会確保法という法律（不登校児童生徒の多様な学びの場を確保していこうといったことを目的とした法律）が議員立法で平成28年の末に成立していますが、その影響もあると思います。全国で17校しかないですが平成29年以降7校と増えてきており、現在、文部科学省の方

にも設置に向けた相談というのは多数受けているという状況です。先ほど一線を画するという話をしましたが、教育課程の特例が認められた学校というところで、保護者の皆さんや子どもさんからの受け止めにしても非常に大きなニーズに応える施策であると思っています。やはり免許を持ったプロの学校の先生が教え、設置基準という一定のハードルをクリアしているということからも質の担保というところでも非常に安心感を与えるというところは事実として確実にあると思っています。教育支援センターやフリースクールの取り組みも並行してやっていく必要はありますが、今後、特例校の設置に向けた支援にも力を入れていきたいと思っています。

その上で両校の発表を聞かせていただき、多様な教育機会を確保していくというところ、教育機会確保法の趣旨である誰一人取り残さないという仕組みを作っていこうと、そういったところに共通する部分があるのかなと思いました。ありのままを受け入れる。草潤中学校さんの学校が生徒に合わせるというやり方、そういった所が印象的であり、共通点ではあるのかなと思いました。特に不登校の要因に関しては、100人いれば100通りの理由があって、背景があって、多種多様であり、一人ひとり状況が異なるといったところとか、不登校というのは誰にでも起こりうるという何か特別なことではないというところで、そういったものをありのまま受け入れていくというところが非常に共通するところかなと思います。加えて、地域との絆というところ、地域との繋がり、絆づくりというあたりが共通しているのかなという印象を受けました。学習指導要領の解説の不登校に関する記述の中に、学校・家庭・社会が不登校児童生徒に寄り添い、共感的理解と受容の姿勢を持つことが、児童生徒の自己肯定感を高めるためにも重要であるという一節がありますが、それを体現している両校なのかなという印象を受けました。

嶋野：はい。ありがとうございました。建学の精神を巡って非常に幅広く、また根本的なお話をうかがうことができました。情熱が必要、しかし情熱だけでは立ち行かない。そこにまた、適切な法律ができたというお話、あるいはまたこれを支えてくれるアドバイザーの適切な意見が反映されて具体的なシステムが出来上がった。本当に多様な面から根本的な話をうかがったと思います。

さてそれでは第二の柱の方に移りたいと思います。学校を作る精神的なもの、根本的なものとしての共通点は多々ありましたけれども、西濃学園さんと草潤中学校さんはそれぞれの固有性・特有性というもの、違いといったものがはっきり出ているように思います。この違いのどこに皆様は着眼されたのか、違いがあるということはどんな意義があるのか、ということ少し掘り起こしていければと思っております。専門医の加藤さんお願いできますでしょうか。

加藤：共通性も含めて色々議論はあったと思いますが、それぞれどういうところに着目するかという課題をいただきました。西濃学園さんですが、寮生活が基本にあるというのが一番

の注目点です。

それは自分自身も高校時代、寮生活をしており、寮生活の雰囲気とか良さとか、そういったものも3年間実体験してきて、実感できる面があるので余計そう思うのかもしれませんが、子ども達が共同生活を一緒にすることで、できることが多くなる。同級生が同じように動けば自分も動きやすいというのもありますし、人間、一緒に暮らすとそういうふうに動けるようになります。

実際に私の患者さんも、西濃学園の寮生活に入ったことで伸びていかれて、楽しく過ごし、大人になっていかれていきますし、他の不登校だったお子さんも、別の学校の寮生活に入ったことで非常にフィットして、逆に「うちに帰りたくない、寮にずっといたいんだ」という子もいました。北浦先生が最初に着眼された合宿、いつも一緒にいるということにとても良い意義があるのではないかと思います。

医療に関しましては、兵庫県に子どもの睡眠発達センターがあり、あそこに多くの不登校児童が入っています。たくさんのお子さんが入院しており、そこに新たな子が入ってきた場合どうなるのかというと、次の日からちゃんと起きるようになることが多いです。同じような生活を同じようにやると、すぐ良くなる場合が多いです。ようするに環境を変えることで、うまく走るということがあります。ではみんなを集めればいいのかということではなく、そこは先ほどからいろいろお話がありますが、どうしても今の学校は評価ということが先にたっています。そうではなく、安心して利用してくれる場所、そして先生がいるんだというに気づくと、子ども達はそこで自分を出して、家以外、今までの学校以外の場所があるんだということに気づいて実際に動き出すと、今まで何もしなくて家でぼーっと寝ていただけの子達が動き出すことがよくあります。

これはご家庭を非難する意味ではないですが、ご家庭を見た場合でも何らかの課題を抱えていることが多いです。家族関係もそうですし、親御さん自身もそうです。そうした時に少し離れるということでお互いが少し冷静になれるという面もあり、私の診療の中でも、試験的に短期入院はしていますが、一人だけ入院させても、なかなか良くならない面があり、共同生活をしているところに一緒にさせていただくということに非常に意味があると思います。

少し目を転じて世界的に見れば、昔から英国にはパブリックスクールというものがあり、似たような効果がずっとあったんじゃないかなと思います。感受性の鋭い、特に男子集団に対し、思春期にどう大人にしていくかというシステムの一つかと思いますので、北浦先生がやっておられるような寮生活も、ただ不登校という面だけではなくて、子どもから大人になっていくときの共同生活を、いかにやっていくかといった面もあるんじゃないかなと思います。

私も少し関わらせていただいています。草潤中学につきましては、コンセプトとして、いわゆる通信制高校の特徴を一気に全部取り入れたスタイルです。通信制高校に行くことで楽しく通学されていかれる方をずっと見てきましたので、それを中学に持ってきて、さら

にそれを公立でやってくださるというのは「非常にありがたい」の一言につきます。いわゆる毎日登校、間欠の登校、ネット・リモート登校という形でいろんな通信制高校が少しずつやっているところを一気に取り入れているということがとても革新的です。

一方で、これからいかにプラクティカルに運営するかが鍵になりますね。「環境という最も最たるものが学校の先生自身」なので、先生のあり方、(西濃学園さんで色々先生も学び・変わって行こうという実践がありますが、)そういったことを取り入れていかないと逆に問題が大きくなってってしまうのかなと危惧しています。

草潤中学校のもう一つの特徴は医療との連携を最初から大きく取り入れていただいているということだと思います。不登校のお子さんお一人を見た時に医療から見た面と教育から見た面と結構ギャップがあります。その子の見方に「教育医療ギャップ」といったものがあり、そこをどうするかということが課題だったので、これからは先生方と話を続けていきたいです。

例えば起立性調節障害(OD)と自閉症などの発達障害の背景を医療的にきちんと把握してあげるということが第一かなと考えております。いわゆる不登校診療の初めの第一歩としての「OD」については岐阜市教育委員会の協力を得て岐阜市では大いに理解が進み、先生方の面談が非常にスムーズになってきました。ここ数年で大きく変わってきた印象です。

一方でODは理解の一步なのですが、誤解が多い疾患で、「単純型と複合型」とに分けて考えています。「単純型」は本当にOD治療だけで「スッと治る」ことが多く、比較的早く登校もできる子が多いです。しかし「複合型」というのは「知的アンバランス」といった知的な特徴や「アスペルガー症候群」などのタイプが複合しているタイプがあり、それを理解していかないとうまくいきません。特に「知的アンバランス」というものが教育現場での解決に直結するポイントだと考えていまして、今回、入学前にWISC検査の実施などをやっていただいているということにつながっています。それを西濃学園さんがやっているように一人ひとりのお子さんについて先生方とともに共有していくことが大事だと思います。草潤中学校については、小児科発達の専門医として、私だけでなく、他の医師も取り込んでいくことが大事だと思います。

両者について大事なことを一つに集約すると、何かをするということではなく、「お子さん自身のことをよりよく知る」といういわゆる「理解ファースト」ということだと思います。それを医療の面からも支えさせていただく、そういったことで先生方と一緒にやっていきたいと思います。それが両者に共通しながらも違うアプローチをしている部分かなと思っています。両者がうまく提携していく、意欲的に連絡を取っていけるといいのかなと期待しているところです。

嶋野：非常に専門的な立場からのお話をうかがいまして、参考になりました。古田さんお願いいたします。

古田：私から3点の相違点を上げていきたいと思います。

最初は加藤先生おっしゃったように西濃学園は寮である、寮で生活している子が8割であるということに着目したいのですが、先ほどの太田さんの発表にもありましたけれども、本当に生活丸ごと指導の場、というか指導というよりは理解の場といってもいいのかもしれないですが、そういう場になっているということで、先生達と一緒にになってその子の生活基盤を作っているということが非常に大きな材料になっているだろうと思います。当然、何人かの子は一緒に生活しているわけで、その中にはルールが必要になりますが、そこで生まれてくるルールというのが、あらかじめ学校側が決めたルールだけでなく、きっと生徒達が自分達で作ってくれるものがたくさんあると思うんですが、そんな中でいわゆる自律、「律する」の自律ですけど、ということが出てくるんじゃないかなと思っています。加藤先生がおっしゃられていましたけれども、家族との関係が物理的にない状態を作るわけで、ということは、一見家族とはすごく仲が悪そうに見えたんだけど、実は、家族ってとってもありがたかったなとか、それから、大切な存在だったんだなということに気がつく、そういう場にもなるんだろうし、また見方を変えると、家族の側からすると、この子がいることは、どんな大切な意味があったのか、この子のありがたさってことに気がつくことになるんじゃないかな、そういう点でいったん家族と離してみるという生活が、結構大きな意味があるんじゃないかなってことを思います。草潤さんの場合はいわゆる通学の形をそのままとるわけですが、生活の基盤はあくまでも家庭にあるわけで、家庭生活の方にどう切り込んでいくか、あるいは保護者とどういうふうに関わり子どもの生活を作り上げていくかっていうのが結構課題になるんじゃないかなってことを考えております。

相違点の2点目ですが、公立と私立の違いっていうのもやはり大きいですよって思っています。それも公立と私立の違いについて、太田さんが学費がとっても高いんですよって言うようなことを言ってみえたんですけど、学費の面ももちろんありますけれど、その他に二つばかりちょっと感じているんですが、一つは通学範囲というのが公立の場合は限られてくる。草潤さんは岐阜市立ですから、おそらく岐阜市の子という限定が出てくると思うんですが、逆に西濃さんは全国どこから来てもいいよって言うような形。それでも草潤さん40人の定員のところで140何人も見学があったというくらい、やはり需要はとっても多いので、その通学範囲の中ですらそうなんだけれども、通学範囲の外にいる子達、で岐阜市なら通えるよ、って言うようになっているって感じている子やその家族って、きつうらやましいと思う反面、何でうちに作ってくれんのやって思いも出てくるだろうし、岐阜市さんが作っている特例校ということで結構課題がいろいろ出てくるんじゃないかって思っています。もう一つは公立と私立の違いなんですけど、公立ですとどうしても定期的に教職員が異動します。そうすると、先生がどうだったかということって、環境として大きいって先ほどから出ていますけれど、最初の段階、今年の4月にスタートするときには、その草潤中学校こういうふうにするんだよって言うことをよく分かった先生でスタートすることができる、可能だと思うんですが、それを何年も続けていくということは可能でしょうか、ということ

は疑問に思うところがあります。いろんな学校で、いわゆる研究校と言われるようなところで、こういった研究を進めて、ということをやってきたわけですが、職員が変わるとそのコンセプトというのはだんだん変わっていったら、当然時代の流れもあるので変わっていったんですけど、本来ここが求めていたものが、どんどん変わってってしまうということはいいいことなのかどうなのかなって、ちょっと疑問に思っています。さらに子どもの面からみると、私立の場合もある程度の異動は当然あると思うんですけど、それでもずっとそこにいる先生もいるので、卒業した後にその学校へ行って、あ、あの先生がまだいてくれるっていうのがこれも安心感につながるんですけど、公立だとどうしてもどンドンどンドン変わってってしまう。卒業しちゃうと先生いなくなっちゃったんだ、っていうことになるだろうな、そういうことも今後考えていかなきゃいけないだろうなって思いますし、教員全体の質を上げるということから言えば、当然県教委さんも考えてはおられると思うのですが、草潤中学校の先生達の研修が、草潤中学校だけにおさまらないで、岐阜市全体で、岐阜市の先生方全員が研修できるような体制を作っていかれると思うんですけど、そうしないと異動することによって質が下がっちゃうってことになり兼ねないんじゃないかなと懸念しております。

3点目ですが、太田さん、特に触れられませんでしたけれども、西濃学園って高校があるんですよ。そうすると中学校を卒業するときにまだ立ち直れないでいる、社会に出ようという、新しいところに行こうという気持ちになれなくても、もう3年間、西濃学園で、高校で頑張れるっていう状態があるんですよ。草潤さんは3年生で卒業したら出ていかなきゃいけないので、この進路をどうしていくかっていうことって、子どもにとっては結構大きなハードルになるんじゃないかなって。実際にスタートしていないのでスタートしてみるとその問題って出てくるのかなって思っていますが、今後どうなっていくかって、先ほど納税者を作るっていう話がありましたけれど、ぜひその高校へ行くときに立ち直ってくれる、新しい社会に出してくれるといいなって思いつつ、でもまだ、という子に対して、もうちょっとモラトリアムのような状態がある3年間があるっていうことの意義っていうのも結構大きいかなって、そういうことを思っています。以上です。

嶋野：ありがとうございました。廣石さんお願いします。

廣石：西濃学園さんについて、やはり特徴としては寮生活ということが非常に大きいと思います。不登校支援についてよく「居場所づくり・絆づくり」の二つが大切だと言われることがあります。寝食を共にするということは当然その居場所ということももちろんですし、それに加えて絆づくりという観点でも非常に特別な意味があるのかなと思います。また、寮生活という集団生活の中で、規則正しい生活リズムを身につけていくということは学校を出た後に社会的自立を図っていかねばいけないという中であって、基本的なことだと思わんですが、非常に重要なことなのではないかなと思います。実際に不登校の要因を文科

省で調査はしていますが、そのうちデータ上はそれほど多くは見えないかもしれないが、約10%は生活のリズムの乱れで不登校になっています。きっかけとして学業の遅れや友達関係というようなところがあり、その後、だんだん理由が変わってきて、休んでいる間に生活のリズムが乱れて、よく言われるのがゲーム依存とか、ネット依存とか、昼夜逆転という状況があって、別の理由で不登校が長期化する、生活のリズムの乱れによって不登校が長期化するということがよく指摘をされています。今回コロナの中で、2カ月程度休校したことによって全国のスクールカウンセラーの方々にアンケートを取った結果、たった2カ月の臨時休校であっても生活リズムが乱れて、特段不登校傾向がなかった子どもについても登校を渋るようになったとか遅刻が増えたとかそういった報告もありました。やはり基本的なところである生活リズムを集団の中で社会性を身につけながら作っていくというところで寮生活には教育効果があるのかなと思います。

草潤中学校の方は ICT を全面に出されているのかなという印象を受けております。特に自宅でもそうですし、校内の別室においてそういった ICT を使った学習をしていくというところで、自宅と教室の間の校内の特別教室といったところを充実させていこうといった取り組みが今、全国でも進んでおります。特別教室においてもそういった ICT を使って教室に入れないけれども学校にはいけるという子ども達もしっかりフォローしていくというところ。加えて ICT ばかりに偏るのではなく、三つのコースを示されていましたが、やはり対面でのフォロー・指導といったハイブリットの形を作っていくといったところを目指しているというところを聞きましたので、これから子ども達にどういったいい影響を与えていくのかなといったところで興味深いなと思いました。コロナの関係でこれまで不登校だった子どもが臨時休校明けに ICT を使った学習をした場合、結構参加が多かったといった実態をお聞きしたりします。授業に参加するというハードルを下げるという意味でも ICT というツールは非常に有効ではないかなと思います。一方で ICT の課題として、しっかりとオンラインを使った学習を評価まで繋げて行って欲しい。出席扱いにはなると思うが、それを最終的な評定の方にもしっかりと繋げて行って欲しいと思っています。そのためには計画的なオンライン学習というのが必要になると思いますし、何を学んだかといったことを学校でしっかりと把握していくことが重要だと思います。評定がないことで高校入試などで不利になるという話をよくお聞きしますが、そういった子ども達の学習成果をしっかりと把握して、評価まで繋げて行って欲しいと思います。前半で草潤中学校さんの話の中で自分の新たな良さ、可能性の発見ということで、自分らしいライフプラン、セルフデザインという科目授業を作られるという話がございましたが、個性を伸ばすということで自己肯定感を高めることにつながっていくということはいくつも言われますが、もちろん子ども達が成長していくにあたって、周りの支えも必要であることは間違い無いですが、その子自身が持つ能力、その子の持つ資源を自ら発見してそれを周りが理解していく。そういったことが社会的自立につながっていくと思っています。子どもの得意なことや興味があること、好きなことの中に自らが課題を乗り越えていく力が存在しているというふうに思っていて、そういっ

た部分を伸ばせる授業「セルフデザイン」というところをこれから実践されるということですが、その成果も非常に興味深いなと思いました。

西濃学園さんのコラボレートという授業は非常に特徴的です。地域との繋がり、体験活動に非常に力を入れておられる印象があり、これまでの実績もあり、たくさん実践されているということで、こういったことは特例校としても非常に有効な取り組みだと思いますし、通常の学校でも非常に参考になることなのかなと思いますので、今日学校関係者の方で聞かれている場合もあると思いますが、非常に参考になるお話だったかなと思います。

嶋野：ありがとうございました。太田さん、西濃学園の固有性・特有性、クリアになりましたか。ちょっと時間が押してきたので、端的にコメントいただきたいと思います。

太田：加藤先生、古田先生、廣石さん、草潤中学校と西濃学園のそれぞれの特徴を明らかにしていただきましたが、みなさまが、子どもを取り囲む人間関係、それは教師との関係だったり保護者との関係だったり生徒同士の関係だったりしますが、その人間関係をとても大事に考えていることが伝わってきました。草潤さんの人間関係では、ICTの利用や、登校してもしなくてもいいというように、自分のペースや自分らしさを大事にもらえるという環境の中で、これまで否定され続けてきたことから解き放たれることを、まずは感じられることがとても意義の大きいことだなあと感じました。一方、西濃学園の人間関係は、寮生活ひとつとっても、人間関係の量が圧倒的に多いというところがあると思います。そこで、生徒は、まずはもちろん、自分を受け入れてもらえる、という体験をしていていないと始まらないんですけど、その後、こんなはずじゃなかったとか、本当はもっとこういうことを望んでいるんだという「葛藤」を、先生との関係の中で、また、生徒同士の関係の中で、必ず経験をしていきます。しかし、その葛藤をしている子どもの姿というのは、とても人間らしくて、そこに成長があるなと感じられて、私どもには、とてもかわいらしくうつります。教師側の変化としましても、葛藤を通して生徒のかわいげを感じられるようになっていくところがあります。そうやって、かわいげを発見されて育つことで、生徒達のかわいげの要素はどんどん成長していきます。そして、学園を卒業して社会に出て行ったときも、人からかわいいと思ってかかわってもらえる人として成長してくれるんじゃないかと思います。そういう人間関係をつくっているところが西濃学園の人間関係の特徴じゃないかな、と思っています。

嶋野：ありがとうございました。北浦さん、お願いします。

学園長：今日、多くの学校の特色を明らかにさせていただいたことによって、色んなことを改めて、考えなければならぬと感じております。一つの大きな点は、子ども達は寮生活をし、学校へ行き頑張ろうという決断をして入学してきます。でも、決断しても、やっぱり授

業に出れないとか、そういう悩みは沢山出てきます。授業に出れない生徒が、自分の生活をかえりみて、自分を模索をするわけですが、改めて今日のこの会を聞かせていただいて、そういう生徒と関わる時にこの生徒を教室へ出そうとか、そういうような意図ではなく、そういう目的ではなく、いわゆる私どもの「そのままがいいよ」という原点をわれわれはもう一度きちっと捉えてやらなければならないんだと、改めて感じ取りました。もう一点は、先ほど公立と私立との差が出たわけですが、やはり私立は経営面というのは大変なんです、やはり草潤さんでやられる ICT、これは私どもも承知しています。これは何とかやっぱり解決していかなくちゃいけないというようなことを感じており、非常にいい勉強をさせていただきました。以上です。

嶋野：ありがとうございました。それでは、早川さん、お願い致します。

早川：まず、不登校の子ども達や親御さんも、進路のことや、内申が付くのかとか、それから、出席日数が足りるのかということに対する思いが本当に強いということがありまして、我々は 40 人の定員でしたが、200 人近くの人達に希望されたということで、これらの人達に対しては、次の手を打たなければいけないと考えておりますので、次の段階の、行政的な政策があるだろうということです。それから、公立と私立の違いというよりは、都市型と山村型のそれぞれの良さが指摘いただいているんですが、これからタブレットの中でバーチャルな世界がますます進む中で、西濃学園さんの宿泊によって得るリアルな体験っていうのは大きなことであると思います。我々としても、都市型の中で、コミュニティスクールを続けてやりますし、参学ブースということで、地域の人や大学などに入ってもらえるようなブースも用意してございまして、日常的に生徒がそれらの人と交わることができるようなことを考えておりますが、それぞれの良さがある学校ということで、今後、私共の生徒が、西濃学園さんとの交流ということもおそらく、考えてくれるのではないかと期待しておりますので、そうした意味で山村型と都市型が、お互い交流できるチャンスができていけばいいなと思っております。それから、人事異動についてのご指摘もいただきましたが、草潤中学校についてはスペシャルな人事異動を考えております。それで、公立と私立の違いもさることながら、公立がやる意味についてキーワードとしてはおそらく波及効果だと思います。公私の他の学校にどう波及させていくか、それから東海北陸全般の教育長から色んな話を聞き始めていますので、現実的に、ある一定規模の市町村、まあ、市、以上から取り組まざるを得ない政策になってくるんだということを。まあそうなると、また西濃学園さんとの連携も広がりを持っていけるのではないかと思います。多様な学びの保障ということで、平等の考え方も色々考えていかなければなりません、義務教育の機会均等と質の向上ということで、どの学校でも同じ学びができるということが、義務教育の本質ではあるものの、それは大切にしつつ、市全体で学びの保障ということを考えていく時代に入ってくるんでしょうから、学校の統廃合は適正規模の問題が大きいんですけども、それと併せて、市全

体で不登校対応、学校づくりをしていくかということを考えていくことになっていくんだと思います。それから最後に加藤先生が言っていた、教育と医療のギャップを減らすということにつきましても、この取り組みをこの学校の使命として広めていくということに大きな課題を持ったということでございますので、まだ我々、何も成しえておりませんが、一生懸命努力していきたいと思います。ありがとうございました。

嶋野：ありがとうございました。情熱や理念、使命感などそういったものを二つの学校は多分に共有しながら、しかしシステムやあり方は随分、固有性・特有性を発揮されています。岐阜県にこのような二つの特例校があるということは素晴らしいことだと思います。時間が終わりに近づいてきたところで、三人のシンポジストの皆さんにメッセージをいただきたいと思いますが、特に西濃学園中学校の職員の皆さん、あるいは保護者生徒、草潤中学校の職員の皆さん。何よりも今どういう学校に行こうかなと色々思い悩んでいる生徒や保護者の方もいらっしゃると思います。これらに向けてお願いします。

加藤：深みのある議論をされて勉強になりました。ありがとうございます。いろんな立場のお子さんに対して普段からメッセージを発していますが、特にここでは先生方に対してメッセージを送りたいと思います。

私からお伝えしたいキーワードは「おたがいさま」という視点であり、先生方は偉い先生になっちゃっています。私も含めてみなさん得手不得手というものがあります。端的には文系理系というのがあり、不得手の方を毎日のように責められると辛いわけです。残念ながら、特に中学校というのは不得手を攻めてしまうシステムになりつつあります。例えば勉強の受け方一つ、ノートの書き方一つ、掃除のやり方一つも全部が評価されている。毎日毎日評価されている。例えば岐阜においては「全員挙手」を推し進めたり、全員挙手というものを先生が評価されて、「今日のクラスは何点ですよ」というのをやって「1日オール5をとりましょう」という運動がいまだにたくさんあります。関東の方にはそういった全員挙手などは無いと言っていました、そういったものがなくなると言っておられました。ある意味大事なこともあります、お子さんと我々はただ単に時間軸で「早く年取っているだけ」ですので、同じように困り感を持ちながら、なんとかこうとか生きていますよね。そういう仲間なんだと、これからだんだん大人になっていく仲間なんだと。「かわいげ」という自分の子どもだったり、後輩として人生を生きていく子達が目の前にいると、先生と言う立場になりますが、少し先を走るだけの単なる先輩ですので、いずれバトンタッチしていくということで、「完璧ではない形でお互いに色々苦労しながらやっているが、君も今頑張ろうね」という感じが欲しいかなと思います。1年や3年間でどうしても「仕上げよう」というお気持ちの先生方が多いですが、中学校で仕上がるなんてことはあり得ないわけで、私も50年以上生きていますが、全く仕上がらず生きてますので、歳を重ねた者が「なかなか難しいけど頑張っているんだよ」という思いで「おたがいさま」という視点

が必要なのかなと思います。

どうしても教室という「クローズド（閉鎖）の空間」になると、先生方はいつの間にか「キング&クイーン」になり、支配的になってしまうことがあるので、そういったことをなくしていきたいです。先生方自身が忙しすぎる、それこそ評価評価で追い回されているので、「我々大人自身が未来を感じられなくて疲弊している」のではないのでしょうか。まず、ご自分を押し殺して滅私奉公的に仕事をしてしまうのではなくて、「楽しいんだよ」という笑顔で接していけるといいかなということでお互い、「先輩・後輩」、「先生と後生」という言葉がありますが、「おたがいさま」という感じでやっていただきたいなと思います。

嶋野：ありがとうございました。「おたがいさま」というのはとても深いですね。古田さんお願いします。

古田：3点また話します。どちらかという懸念とか不安になってしまうかもしれません。私は教員養成に携わっている立場と、もうひとつ学校教育相談学会の岐阜県支部の理事長と云う立場で教員の研修の機会を多少なりとも経験していることもありますので、どちらかという先生方へのメッセージ、となるかもしれません。

1つ目は、かつて特別支援学校ができ始めたときにあったことなんですが、この子は障害という診断があるのに、何でこの普通科高校に来ているの？という先生が何人かみられた。そのことから考えられることは、不登校なんだから、特例校に行けばいいんじゃないかって言う先生が出てこないかっていう心配ですね。特例校じゃなくても通常の教育課程の中で先生がその子のためにできることっていっぱいあるはずなので、それをやらないで不登校になったら不登校特例校に行けばいいんじゃないかっていう言い方はやっぱり止めてほしいな、絶対やってほしくないな、それって排除につながるんじゃないかなって感じている限りです。

2点目は子どもの見方です。私は発達心理をずっとやってきておりますので、本日は両方とも中学校の紹介なんですが、この時期、中学校の時期っていうのは青年期、思春期の時期であるということ。言い方を変えると、さなぎの時期であるって言い方をするんですけど、先ほどからありのままとかそのままっていう言葉が出てきましたけれども、つまり、自分が何者なのかを一生懸命探っている時期、アイデンティティを追い求めている時期なわけで、迷うのが当然、悩むのが当然の時期なんですから、そこをちゃんと認めてやらないと、子ども達は苦しくなるのかなって思っています。先ほど小野木さんの主張の立派さっていうのは、自分が何者なのかっていうのをずっと追い求めてきて、自分なりにある程度見えてきたものがある、それを発表したことのすごさがあるって感じています。

その発達ということで3点目ですけれど、今、事例として挙がっているのは中学生のことですが、中1ギャップ、ぐんと中学生になると不登校が増えることがある。確かなんですが、根っこってやっぱり小学校のときにある程度、すでに何らかの兆候を表していること

て多いんで、北浦先生は高校から中学校を作り、という風な形を取っているのですが、もう1つ下まで下がらないといけないんじゃないかな、って最近感じているんです。児童期っていうのをそれぞれの家庭でうんと大切にしてもらって、子どもは子どもらしく育ててもらえたら、あるいは小学生は小学生らしい生活を送ってくれたらなと思っています。以上です。

嶋野：ありがとうございました。三つの点を分かりやすく話していただき、同意や共感をしながらお聞きしました。廣石さんお願いします。

廣石：文科省の方で特例校についてアンケートを行った時にいただいた言葉として、児童生徒のペースに合わせた課題設定がなされていて、それらのスモールステップに対する取り組みがしっかりと評価されることによって自己肯定感が高まった、それまで諦めがちだったことにも意欲的に挑戦する姿勢が多くなった、このような変化が進学などの進路設定にも好影響を与えている、といったご意見や、これまでの大きな集団での活動は苦手だったけど、個別・小集団での活動が特例校では多くて、非常に学校に馴染みやすかった。また、そういった子どもの表情の変化が、ひいては保護者にも良い影響を与えているというご意見をいただきました。今不登校となっている子ども達本人や保護者の皆様に置かれては非常に困難を抱えていると思いますが、アンケートにあったように、特例校というものについて岐阜県については全国17校のうち2校があるというところで、一つの選択肢として検討に値するものと思います。

また、波及効果という話もありましたが、こういった特例校の取り組みが特例校以外の学校においても十分参考になるところはある、学ぶところはあると思いますので、そういった観点でも文科省としても自治体においても情報発信をしっかりとしていく必要があると改めて思ったところです。そういった意味でも今日のシンポジウムは教育関係者にも多く見られていると思いますので、意義のある会だったと思っております。本日はありがとうございました。

嶋野：皆さん、ありがとうございました。私、途中から、そもそも人間とはどのような存在か、ということがすごく頭の中を支配してきました。ありのままでいいんだよとか、可能性を伸ばすとか発揮するとか、そういう話の一つひとつが人間の本質に戻るような気がして、非常に感銘を受けてお聞きしました。

厚労省は去年、「人間開花社会の実現に向けて」という提唱をしています。一人ひとりの人間がありのままの自分を開花していく社会が実現していったらどんなに素敵だろうと思います。今日の不登校特例校のお話を中心にしながら、共通しているのは他の学校でも必要ということだと、原点がここにあるということだったと思います。みなさん本当にありがとうございました。時間がちょっと延長してしまったことをお詫びして、司会の任を降りさせ

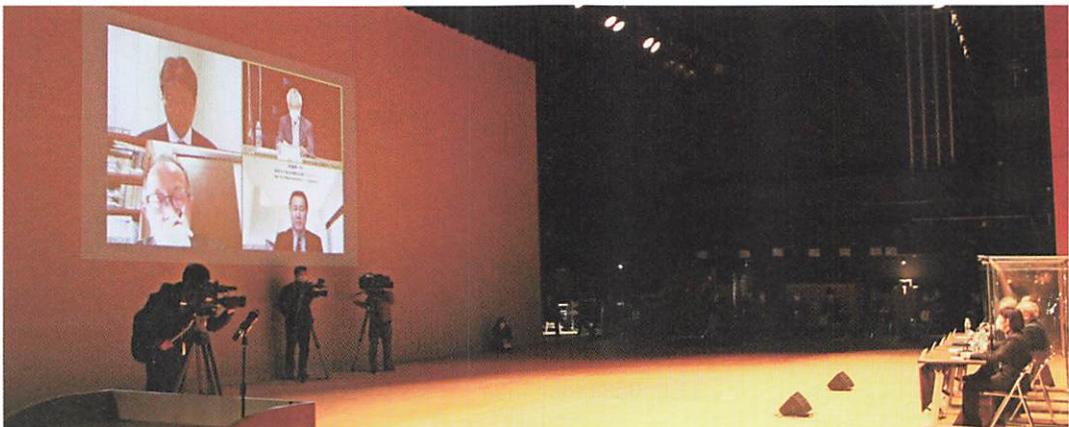
ていただきます。ありがとうございました。

丹羽：この日も終わりの時間が近づいてまいりました。
最後に閉会の言葉を西濃学園北浦茂が申し上げます。

学園長：長時間にわたりありがとうございました。この会を計画するにあたってどちらかという草潤さんが今度の4月から開校されるのに私どもが一方向的に早川先生にこういうことをやらせてくださいと無理にお願いをした次第で、本当に申し訳なく思っております。しかし今日、草潤さんの発表を聞き、私どもの学園を改めて見直すという大きな勉強をさせていただくことができました。また、この会を開かせていただくことによって不登校で悩んでいる子ども達の笑顔が一人でも多く増えることができるのではないかとわくわくした気持ちでこの会を進めさせていただけたことに感謝をしております。

この会を進めるにあたり、岐阜県教育委員会、揖斐川町教育委員会、岐阜県私立中学高等学校協会、田口福寿会、岐阜放送、岐阜新聞社会事業団の方々に多大なご支援をいただいて開くことができました。私どもはいろんな方から支えられて子ども達を見守っていただけるんだというそういう温かい気持ちでこういうことができることに大変嬉しく思っております。最後になりますが、今日御登壇いただきました先生方に熱く熱く御礼を申し上げて、この会を終わらせていただけたらと思います。どうもありがとうございました。

丹羽：それではこれを持ちまして、不登校特例校実践報告会を閉会とさせていただきます。最後までお付き合いいただきありがとうございました。



令和2年度
西濃学園教育報告書
対話が拓く 岐阜の教育

令和3年3月発行

発行 学校法人西濃学園
印刷 (株)旭クワイエト
〒503-0006 大垣市加賀野4丁目1番地16
TEL 0584-82-3555